

看護学科

2年

科目名：母性・小児疾病治療管理論				担当教員 氏名：吉本英生(母性) 木田和典、長森万里子(小児)		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門基礎科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
・新生児から思春期にかけての小児期における看護援助をするために、小児期における疾患の特徴および精神・社会的問題を理解する。・妊娠・分娩・産褥の正常な経過と各期における異常および婦人科疾患について病態を理解し、医学的処置について理解する。						小児・成長・発達・小児の疾患・小児の環境
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 6. 10	
A 知識・理解力			胎児・乳児の成長に影響する母体と小児期の成長発達の正常と異常について理解できる。			
C 論理的思考力			連続した成長発達に及ぼす影響を複眼的、論理的に整理できる。			
E 自己管理能力			学生自身の予防接種や罹患した病気を通して小児期の健康管理について考えることができる。			
G 倫理観			弱者としての小児を守り、小児の環境を健全にする意識を持つ。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 100 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %		
特記事項： 【長森】出席をとります。テストで評価します。 【吉本】小テストで評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 最終回の講義のあとにまとめてテストを行います(長森) 毎回授業の最後に小テストを行います。(吉本)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：【吉本】解答を提示し授業ノートで確認 【長森】試験の解答と一緒に講評を文章にして後日配布します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【木田】小児の成長と発達、その評価法、栄養と小児保健、予防接種、新生児、先天異常、マスキューニング、先天性心疾患						
②【長森】小児のよく見られる疾患、呼吸器、アレルギー、感染症						
③【長森】小児のよく見られる疾患 神経疾患、皮膚疾患、小児救急				【事後】講義の内容をテキストで確認し復習する		
④【長森】小児の慢性疾患、障害児						
⑤【吉本】妊娠期の異常 (小テスト)				【事前】テキストを読む		
⑥【吉本】分娩期の異常 (小テスト)						
⑦【吉本】産褥期・新生児の異常 (小テスト)				【事後】小テストの問題を中心に復習する		
⑧【吉本】婦人科疾患と治療 (小テスト)						
使用テキスト： ①系統看護学講座 専門25 母性看護学各論 母性看護学[2] 医学書院 (吉本) ②新体系看護学 全書24 成人看護学⑩ 女性生殖器 メヂカルフレンド社 (吉本) ③ナースの小児科学 中外医学社(木田、長森) ④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2]医学書院 (長森)				その他参考文献など： 「新生児蘇生法テキスト」 「病院前救護のための産科救急トレーニング」		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：小児は大人のミニチュアではない。受胎に始まり、成長と発達を重ね思春期に至る小児の身体・精神的特長を理解して欲しい。小児では、個々の疾患の治療のみならず、成長と精神発達を加味した包括的医療があることを理解して欲しい。肉体的・精神的弱者としての小児の特異性を、社会医学的観点から理解し、患児や家族にいたわりの気持ちを持って接することができる医療人になって欲しい。						

看護学科

2年

科目名：精神疾病治療管理論				担当教員 氏名：田仲 耕大・高野利明	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門基礎科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要： 精神疾患治療管理論では精神障害の症状、分類、診断、治療およびリハビリテーションなどに関する臨床医学の主要専門領域である精神医学について、看護に必要とされる基礎知識を習得する。また、家族援助の意義と留意点を臨床心理士のかかわりを通して心理学的観点から学ぶ。					キーワード 精神障害の症状、分類、診断、治療、リハビリテーション、家族支援
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 8. 9	
A 知識・理解力	①精神疾患を成因的に分類できる				
B 専門的技術	②主要な精神疾患の概要を述べるができる				
D 問題解決力	③精神科治療に関わる治療法の特徴と各障害への適応を知る				
H コミュニケーション力	④家族援助の必要性を理解する				
	⑤家族アセスメントの方法を理解する				
	⑥かかわり方の留意点を理解する				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：50%	レポート：50%	発表：%	実技試験：%	その他：%	
特記事項： 【田仲】適宜、必要となる知識の確認をする。 【高野】レポートのテーマや提出日などは講義内で提示する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 【田仲】毎回の授業の終了時にリアクションペーパーを記述する。まとめとして知識の確認をする。 【高野】講義で印象に残ったことに感想を入れて、レポートにまとめる。レポートはA4、1ページ。書式は自由。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：【高野】レポートにコメントをつけて返却する。 【田仲】試験終了後に答案を模範解答・解説と一緒に返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【田仲】序論・歴史・精神症状学			【事前】疾患と治療について考える		
②【田仲】器質性精神障害			【事後】配布資料の確認と復習		
③【田仲】統合失調症			【事後】配布資料の確認と復習		
④【田仲】気分障害			【事後】配布資料の確認と復習		
⑤【田仲】神経症性障害、摂食障害など			【事後】配布資料の確認と復習		
⑥【田仲】疾患論のまとめ			【事前・事後】まとめ		
⑦【高野】家族援助の意義、家族のストレス			【事前】家族支援について考える		
⑧【高野】家族のアセスメント、かかわり方の留意点			【事前・事後】まとめ		
使用テキスト：【田仲】系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①(医学書院)、系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②(医学書院) 【高野】不要				その他参考文献など： ・家族が知りたい統合失調症への対応Q&A 高森信子 著(日本評論社) ・看護のための精神医学 中井久夫/山口直彦 著(医学書院)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 精神看護学援助論の履修に必要な知識を学習するので、しっかり取り組んでください。 患者や家族に対し現在の援助はチームを組んで行うのが一般的です。 他の職種が援助でどの部分を支え、どんなかかわり方をするのかを知ってください。					

看護学科

2年

科目名：放射線治療管理論				担当教員氏名：亀井哲也、中橋ふみ子 油野民雄	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門基礎科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
<p>進歩の著しい臨床放射線医学(放射線腫瘍学、放射線診断学、核医学)の概要を理解する。</p>				放射線診断、放射線治療、 放射線防護 CT MRI 核医学 PET IVR	
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.	
A 知識・理解力		<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療の対象疾患、治療方法、治療に伴う合併症について理解する。 放射線診断学特にCT, MRI, PETの特徴と臨床における役割を理解する。 			
F チームワーク・リーダーシップ		<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療や放射線診断における看護師の役割について理解する。 			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：90%	レポート：%	発表：%	実技試験：%	その他：10%	
特記事項： 出席状況・出席態度も評価する。全体の得点が60点未満の場合はReport提出を課す。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：テストを1回行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：最終回にテストについて解説する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【亀井】講義；放射線医学の基礎的事項・放射線防護について			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習		
②【中橋】講義；CTについて			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習		
③【中橋】講義；MRIについて			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習		
④【油野】講義；核医学、PETについて			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習		
⑤【亀井】講義；超音波診断、IVRその他+「放射線診断学・放射線防護」のまとめ			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習 テストで間違えたところを確認する		
⑥【亀井】講義；放射線治療学総論			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習		
⑦【亀井】講義；放射線治療学各論			【事前】教科書を読む 【事後】プリントの復習		
⑧【亀井】全体のまとめ			【事前】レポート作成 【事後】テストの見直し		
使用テキスト： 系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学（医学書院）			その他参考文献など：		
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 卒業後は放射線診断や治療に関してまとまって学ぶ機会はほとんどないと思われるので、患者からの質問に答えられる程度には勉強して理解をして欲しい。事前学習してきたことを前提に講義をし、質問をする。小テストを行う場合もあるので、予習を十分に行うこと。</p>					

看護学科

2年

科目名: 東洋医学概論				担当教員氏名: 柴原直利、四日順子、室谷良子	
単位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門基礎科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<p>【柴原】 本邦は超高齢者社会を迎えるにあたり疾病構造が変化し、伝統医学の役割が再認識されている。東洋の伝統医学と近代西洋医学とは病態の認識方法や治療概念が大きく異なっており、伝統医学の体系と近代医学との調和をいかに推進していくかが今後の重要な課題となる。そこで、東洋医学の全体像を理解することを目標とする。</p> <p>【四日】看護の中心概念と東洋医学の心身一如の概念は類似している。本講義では、心と身体を統合的に捉える全体性を理解し、ひとが本来持つ治癒力を促進するケアについて理解する。</p> <p>【室谷】 古くから家庭で伝えられてきた、血の道療法の手わざ法の一部を取り入れ、いつでも、どこでも、誰でも、簡単に、短時間で実行でき、ケアする人もされる人も負担の少ない疲れにくい方法を提案します。この方法は、身体を温めることで、活動しやすくなり、活動することで自然治癒力を蘇らせ、心身の活性化を図ります。病のある人やあるいは病気がないにもかかわらずどこか体調の優れない方々への適用はもちろんのこと、現在健康であるがさらに健康的に生活したい方々にも提案することができます。医療に携わる皆さんは、まずは自分自身が心身共に健康であることが求められます。本シリーズでは、まずは、自分自身の身体を調整する方法を知ること、そして、健康問題に様々な反応を示す人々の苦痛や不安、心配事が最小限になるためのケアの一部を紹介します。これらのケアによる実証や臨床結果も併せてお伝えします。</p>					東洋医学 漢方薬 全体性 治癒力の促進 非薬物療法 爪きり マッサージ フットケア 血の道療法 伝統医学
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		1. 東洋医学と西洋医学における「病態認識」及び「治療概念」の違いを理解する。 2. 東洋医学における「診断法」を理解する。 3. 臨床における漢方薬の利用状況(主要な対象疾患と頻用方剤、副作用などの問題点など)を理解する。 4. 西洋医学では解決のつかない健康問題をもつ対象への非薬物療法について理解する			
B 専門的技術		1. 臥床時の体重のかかり方を均等にするためのタオルの使い方を体験する 2. 爪根に平行な爪の中心のとり方を体験する 3. 爪の周囲のマッサージを行うことができる			
E 自己管理能力		4. 家庭用爪切り及びニッパーを用いた爪きり方を体験する 5. 臨床で活用できる簡単なマッサージを体験する 6. 一日の疲れを簡単にとる方法を体験する			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	%
特記事項: 【柴原】出席状況と授業毎に行う小試験の結果により成績を評価する。 【四日】出席状況とレポートにより評価する 【室谷】出席状況とレポートにより評価する テスト:50% その他:50%					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: [柴原]授業毎の最後に小テストを行う					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 採点し返却する					
授業計画			事前・事後の学習課題		
<p>【柴原】 ①現代医療における東洋医学の役割と漢方医学的概念(1) "陰陽虚実" ②漢方医学的概念(2) "気血水論"と漢方医学的診察法 ③漢方方剤の成り立ちと頻用方剤、副作用について</p> <p>【四日】 ④全体性の理解と治癒力促進のケア</p> <p>【室谷】 ⑤臥床時の体重のかかり方を均等にするタオルの置き方の体験 ⑥爪の周囲のマッサージ、爪根に平行な爪の中心のとり方、切り方の体験 ⑦臨床で活用できる簡単なマッサージ体験 ⑧一日の疲れを簡単にとる方法の体験</p>					
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布します			その他参考文献など: 【柴原】「絵でみる和漢診療学」JJNスペシャル 寺澤捷年 著(医学書院) 【室谷】「からだガスーツと楽になる全身ケア」室谷良子 著(メトロポリタンプレス)、「ピクチャーブック 爪のケア・手足のケア技術」室谷良子 監修(看護の科学)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 【柴原】 1. 東洋医学の心身一如の理念を理解して欲しい。 2. 東洋医学的病態を判断した上での漢方方剤による治療体系を理解して欲しい。 【室谷】身近なタオルや用具を使用して、簡単にできるケアの方法を提案します。ご自身のため、またご家族のため、病の人へのケアのため、是非試してみてください。					

看護学科

2年

科目名: リハビリテーション論				担当教員 氏名: 小山祐見子、岡田有由 金岡さち子					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次 後期	専門基礎科目	講義	選択					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
言語聴覚士の立場から言語療法の考え方、その実際の看護への期待、連携のあり方について説明する。 作業療法士の立場から作業療法の考え方、その実際と看護への要望、連携のあり方について紹介する。リハビリテーションの概念。リハビリテーション医療と理学療法士の取り組み、実務経験に基づく主要疾患のリハビリテーション制度の現状と課題。看護師に望みたいこと等を説明し理解を深めてもらう。					リハビリテーション 言語療法 作業療法 理学療法 脳血管疾患・高次脳機能障害・廃用症候群				
授業科目の到達目標									
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8.					
A 知識・理解力		リハビリテーションの概念と医療の流れについて理解を深める。 言語療法、作業療法、理学療法の理論と実際について理解を深める。							
C 論理的思考力		リハビリテーション医療における看護の役割について自分の考えを表現できる。							
F チームワーク・リーダーシップ		リハビリテーションにかかわる人々にふれ連携のあり方について考える。							
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 各担当講師により、評価法が異なる。 【小山】テスト80% その他20%(出欠状況・授業態度により加点) 【岡田】テスト100% 【金岡】テスト100%									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 【小山、岡田】・2回目講義時に実施する。 【金岡】・1回目の講義の前にテーマに関する資料<テキスト>を配布する。 ・1~3回の講義終了後に出席カードの提出を求める。 ・4回目にテストを実施する									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 【小山】試験用紙に結果とコメントを記載して返却します。 【岡田】試験にコメントを記載することでフィードバックとします。 【金岡】試験において60%以上の点数の者は、誤った箇所を自分で調べ再提出する。それ以下の者は、理解できていない箇所を聞き取り、説明し、レポート提出にて確認する。									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
①【小山】言語療法の実際				【事後】講義内容の復習					
②【岡田】作業療法とはについて学ぶ、作業療法の目的と対象、作業療法の実際についてナースとのかかわり									
③【小山】言語療法の実際				【事前】前回の復習を行い、自分の考えをまとめておく					
④【岡田】作業療法の実際について学ぶ、まとめ									
⑤【金岡】リハビリテーションの概念、障害の捉え方と援助活動<W.H.Oの概念>など									
⑥【金岡】リハビリテーション医療のながれと理学療法の進め方<理学療法> ※実習室で関節の動き方等を学習する為、動きやすい服装でお願いします									
⑦【金岡】リハビリテーション医療の現状と課題、看護師に望むこと									
⑧【金岡】まとめ、意見交換									
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布します				その他参考文献など: 「理学療法概論テキスト」南江堂 「地域リハビリテーション論」三輪書店 「『作業』って何だろう」医歯薬出版					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): テキストは指定しませんが、各自「リハビリテーション医療」について予備知識があれば、話を深められると思います。									

看護学科

2年

科目名：公衆衛生学				担当教員 氏名：寺西秀豊	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門基礎科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
地域保健・医療問題解決のために必要な公衆衛生学の基礎知識に重点を置き、疾病予防、疫学、行政施策、および国際的取り組みについて学ぶ。地球規模の環境問題と公衆衛生の今後の課題を考える。					公衆衛生 疫学 環境問題 地域保健 予防
授業科目の到達目標					
学習教育目標	自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)			1. 2. 4. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の歴史を学び、どのように公衆衛生が形成されてきたか理解する。 ・病気の3大要因と、疫学と予防の関係を理解する。 ・公衆衛生行政の背景にある科学的根拠を理解する。 				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 60 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %	
特記事項： 4回目の授業の時に小テストを課し、8回目の授業で試験とレポートを実施する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 小テストの結果を説明し、弱点克服を図る。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①公衆衛生の歴史			【事前】テキスト「公衆衛生の歴史」を読む 【事後】①の復習		
②公衆衛生のシステム			【事前】テキスト「現在の公衆衛生システムと政策」を読む 【事後】②の復習		
③公衆衛生の政策			【事前】テキスト「諸外国の公衆衛生政策」を読む 【事後】③の復習		
④公衆衛生の公的責任			【事前】テキスト「これからの公衆衛生」を読む 【事後】④の復習		
⑤公衆衛生の方法			【事前】テキスト「公衆衛生のものさし」を読む 【事後】⑤の復習		
⑥疫学調査の実際			【事前】テキスト「統計調査の実施と情報処理」を読む 【事後】⑥の復習		
⑦公衆衛生のアプローチ			【事前】テキスト「公衆衛生行動のプロセス」を読む 【事後】⑦の復習		
⑧まとめ			公衆衛生全体の復習をする		
使用テキスト： 平野かよ子、他(編)：ナーシング・グラフィカ⑧ 「公衆衛生」メディカ出版				その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 公衆衛生は国家試験にも多く出題される重要な分野です。しっかり取り組んでください。テキスト以外にプリントを使用することもあります。各自でなくさないように保管して下さい。					

看護学科

2年

科目名: 国際医療活動論				担当教員 氏名: 立瀬剛志、大音清香、JICA北陸		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
国際的視野に立って、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念を学ぶ。 また、社会の格差と健康の格差の関係について学び、健康及び看護ケアに影響を及ぼす問題などについて具体例を通して学ぶ。 更に、看護職としてどのような活動に貢献できるのか、具体的な貢献の方法と実際の活動例について学ぶ。						プライマリーヘルスケア ヘルスプロモーション 国際協力 JICA 健康格差
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 10	
A 知識・理解力			①プライマリーヘルスケアの国家間の違いについて説明できる。 ②1次予防・3次予防という視点からヘルスプロモーションならびに地域保健システムの重要性について理解する。 ③心理社会的背景も含めた健康格差の現状について理解する。			
C 論理的思考力			④国際協力を推進する目的、方法、施策や国際協力をするときの留意点などについて理解する。 ⑤JICAの活動の実際、協力員のその後の活動等について知る。			
E 自己管理能力			⑥看護活動を通しての国際医療への関心を深める。			
G 倫理観			⑦看護の問題意識を高め自己の看護観を深める。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
特記事項: 【立瀬】レポート50% 出席・授業態度50% 【JICA北陸】レポート80% 出席・授業態度20% 【大音】レポート80% 出席20%						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義終了後						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:【JICA北陸】レポート確認後返却【立瀬】採点し返却する						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【立瀬】プライマリーヘルスケアの国際比較				【事後】レポート作成情報の整理		
②【立瀬】ヘルスプロモーションの概念と保健システム				【事後】レポート作成情報の整理		
③【立瀬】健康格差論と社会疫学の基礎				【事後】レポート作成情報の整理		
④【JICA北陸】JICAにおける保健医療分野の支援について				【事後】レポートを課する		
⑤【JICA北陸】途上国の保健医療の現状とボランティア活動の実際				【事後】レポートを課する		
⑥【JICA北陸】JICAの活動の実際				【事後】レポートを課する		
⑦【大音】医療活動・協力から看護職の役割を学ぶ				【事後】レポートを課する		
⑧【大音】エジプトにおけるJICAの活動報告・キリバス共和国における医療活動支援の実際				【事後】レポートを課する		
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布します				その他参考文献など: マイケル・アーモット:ステータス症候群(日本評論社) ジョナサン・ハイト:しあわせ仮説(新曜社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 【授業概要】 具体的な国際看護の活動を紹介し、各自がグローバルな視点で国際的な医療活動を理解する。(大音)						

看護学科

2年

科目名：看護倫理					担当教員 氏名：境美代子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
看護が対象とする人を理解し、一社会人として倫理的視点における判断や意思決定能力を身に付けるとともに、身近におきている倫理問題を認識し、倫理的行動につなぐことができる。対象者の尊厳を擁護できる人としての倫理感性を高めることができる。					看護倫理・尊厳・人権擁護・倫理問題	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 8	
A 知識・理解力			倫理原則や看護者の倫理綱領の意味することが理解できる			
C 論理的思考力			倫理的側面における判断や意思決定において看護の立場で考えて行動ができる。倫理問題となる事例について考える。			
D 問題解決力			倫理的課題に遭遇した時に看護職として問題解決できる対処能力を身に付ける			
E 自己管理能力			看護場面で直面するジレンマについて問題を検討し解決する方向性が見いだせる。			
G 倫理観			人々の多様な価値観を認識し、専門職としての共感的態度および倫理に基づいた行動ができる能力を養う			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %		レポート： 10 %		発表： 20 %		実技試験： %
					その他： 10 %	
特記事項：学生が実習体験の中で「倫理問題」と捉えた事例を分析し、まとめる。アクティブラーニングとして事例からの学びや解決方法についてグループでまとめて発表する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：倫理概念を学んだ後に、実習で体験した倫理的問題を分析し、発表。課題レポートは授業終了後に提示。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 課題レポートはコメントを記入し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①看護における倫理の必要性 1)倫理的思考、判断、行動2)価値観の理解3)倫理的問題				【事前】テキスト(第I章)を読む 【事後】①の復習		
②看護倫理に関する基礎知識(倫理道德、倫理原則)1)自律尊重・無害・善行・誠実・正義・忠誠の原則 2)看護者の倫理綱領				【事前】テキスト(第II章)を読む 【事後】②の復習		
③看護実践上の倫理概念(ケアに必要な看護者の倫理)1)インフォームド・コンセント 2)ケアリング 3)アドボカシー 4)守秘義務など				【事前】テキスト(第III章)を読む 【事後】③の復習		
④看護者の倫理綱領15条と事例分析 1)条文から内容を理解し、事例を分析する				【事前】テキスト(付録2)を読む 【事後】④の復習		
⑤事例による看護倫理分析(グループワーク)1)自分の倫理的問題事例をまとめる 2)グループ間で倫理的問題を共有し、改善策を考える 3)一つの事例を発表する内容でまとめる				【事前】グループ学習により自分とは違う観点を理解できる		
⑥倫理問題事例による分析発表 1)各グループの発表から他の倫理的問題事例を理解し、改善策を共有する。2)自分の気付かなかった倫理的問題について確認し、倫理的行動に繋げる				【事前】グループ学習により、倫理問題を解決する手段を考えることができる		
⑦臨床現場で直面している倫理的ジレンマ1)倫理的ジレンマの改善策を理解し、行動できる				【事前】テキスト(第七章)を読む 【事後】全体の復習		
⑧まとめと振り返り(看護研究と倫理など)1)研究倫理を理解する 2)身体拘束の概要を理解し看護師として役割を確認する。				【事前】配布資料の復習		
使用テキスト： 「看護倫理」南江堂 編集：小西恵美子				その他参考文献など： 看護実践の倫理 第2版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：倫理は看護の「心」です。看護実践の中心となる「心」について患者や家族・同僚とのかわりでの大切な視点となる倫理について一緒に考えましょう。						

看護学科

2年

科目名：看護管理論				担当教員氏名：境 美代子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門科目	講義	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職個人および看護組織が担う役割を理解する。②医療施設における看護管理者の看護実践活動の現状と課題を看護管理の視点で理解する。③マネジメントについて理解を深め、リーダーシップを身につけ活動できることを目指す。					看護管理、看護組織、看護提供システム、安全管理、看護政策、看護サービス、リーダーシップ	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力	看護管理=マネジメントについて理解を深める					
B 専門的技術	患者-看護師関係で「最善なケア」を提供できるしきみを考える力をつける					
C 論理的思考力	看護サービスを提供するために計画的、継続的に活動するしきみを考える					
E 自己管理能力	自己の目指す目標に向かい何をすればよいか計画的に活動できる					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダーシップを身につけ活動できることを目指す					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: %	グループワーク: 10 %	その他: 10 %		
特記事項: アクティブ・ラーニング ・臨床実習前の看護の統合として考え、学生自身で気づいて、率先して自己変容できることを目指している。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業ごとに課題レポートを提示し、概要を理解できているかを確認する。テストは8コマ終了後に実施。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 課題レポートは提出後にコメントを記入し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【境】看護管理の役割、看護師の仕事とその管理(組織構造の中の管理)				【事前】テキストを熟読し看護管理の位置づけを学習する 【事後】課題復習		
②【境】看護の質保証と看護管理(看護サービスの組織化、実践の評価と改善法)				【事前】看護管理を実施するために必要なスキルを学習し、概要をまとめる 【事後】課題まとめる		
③【境】看護管理のスキル(人間関係を構築する技術、組織の効率を高める技術など)				【事前】テキスト看護管理のスキルを熟読し、マネジメントの概要を確認しておく 【事後】課題まとめる		
④【境】看護と経営(組織の理解、医療保険制度、診療報酬制度について)				【事前】医療制度、看護体制の概要をまとめ、授業内容から看護管理の位置づけを学習する 【事後】配布資料を復習		
⑤【境】看護をとりまく諸制度(看護必要度、DPCなど)				【事前】医療制度の概要をまとめ、授業内容から看護管理の位置づけを学習する 【事後】課題をまとめる		
⑥【特別講義】 医療施設における看護管理の実際(看護必要度・DPCについて外部講師から学ぶ)				【事前】看護必要度・DPCについてテキストを熟読する 【事後】実際に必要度の評価を実施		
⑦【境】病院組織における労務管理(看護配置基準、看護基準・看護手順、勤務時間管理など)				【事前】日本看護協会ホームページから看護政策の現状を調べてまとめる 【事後】課題をまとめる		
⑧【境】まとめと試験				【事前】看護管理を担う役割を全体的に理解する		
使用テキスト: ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①「看護管理」メディカ出版				その他参考文献など: ・「看護必要度」評価者のための学習ノート 第3版 筒井孝子 日本看護協会出版会 ・「看護管理」学研		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 看護管理とは適切な看護を提供するためにすべての看護職が理解することです。組織のメンバーとして良い看護を提供するために看護職者が果たす役割について考えましょう。リーダーシップを理解してマネージメントができるように成長していきましょう。						

看護学科

2年

科目名：医療安全管理論				担当教員氏名：境美代子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
看護・医療事故予防に関する知識・技術を習得し、安全な医療ケアが提供できるように、患者に存在する危険を認識する能力を持つこと。さらに危険予知能力を持つことの重要性や根拠を理解し行動できる実践力を身につける。					医療安全・リスクマネジメント・危険予知・インシデント
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 9	
A 知識・理解力		医療における安全管理の重要性を理解し、安全対策について行動できる			
B 専門的技術		事故防止の考え方を理解し、危険予知能力を身につけて実践できる			
D 問題解決力		看護ケアの特殊性から危険防止の観点で危険リスクを考慮して分析し安全行動ができる			
F チームワーク・リーダーシップ		グループワークを通してチームメンバーとしての役割を自覚するとともに、メンバーの意見や考え方の違いに気づき、尊重しながら自分の考えが言える。メンバー相互の理解を深め、統合された内容を発表できる			
G 倫理観		危険を察知できる感性を持ちながら倫理的配慮をすることができ、行動できる			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 70 %	レポート： 10 %	発表： 10 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：KYTの実際を理解し、グループ発表する。発表内容も評価する。病院の医療安全管理看護師から実際のリスクマネジメントを学ぶ。「その他」は出席状況や授業態度など総合的に評価する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：課題レポートは授業ごとに提示する。テストは最終日に実施					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：課題レポートは提出後コメントを記入し返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【境】医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向			【事前】テキスト(1章)を読む 【事後】①と配布資料の復習		
②【境】医療におけるリスクマネジメント(ヒヤリハットレポート作成)			【事前】テキスト(2章)を読む 【事後】②と配布資料の復習		
③【境】医療事故のメカニズムと人間工学的対策			【事前】テキスト(3章)を読む 【事後】③と配布資料の復習		
④【境】リスクマネジメントのプロセス(危険予知トレーニング)			【事前】KYTの手法を理解する 【事後】グループ演習からの復習		
⑤【特別講義】臨床におけるセフティマネジメント 患者誤認・薬剤関連・チューブ・カテーテル他(動画あり)			【事前】第4章から医療現場における体制を理解する【事後】配布資料の復習		
⑥【特別講義】臨床におけるセフティマネジメント・接遇と医療安全・チームで目指す医療安全			【事前】現場のリスクマネジメント管理について資料をまとめる【事後】配布資料の復習		
⑦【境】臨床における事故発生の現状と安全管理			【事前】事例分析から安全管理体制についてまとめる【事後】課題をまとめる		
⑧【境】まとめと試験			【事前】課題レポートの作成とまとめ、テストの準備		
使用テキスト： ・ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践2「医療安全」			その他参考文献など： ・「看護実践マネジメント/医療安全」メヂカルフレンド社 ・「医療安全ワークブック 第3版」川村治子著 医学書院 ・「ヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術」川島みどり		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 看護学生として危険を察知する能力を身につけるために、安全管理の知識や技術を学習して「気づき力」を獲得してください。					

看護学科

2年

科目名：国際・災害看護活動論				担当教員氏名：北濱 まさみ、村田 美代子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
1. 異文化理解と看護の国際化について理解を深める 2. 災害看護の実際を理解することができる					国際機構、ミレニアム開発目標、 災害のサイクル、トリアージ、 心的外傷後ストレス障害	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力			現場で起きている問題について、その背景や影響などを踏まえた考察ができる			
D 問題解決力			困難な状況下において看護師という専門職の立場で問題に対処する意識をもつことができる			
F チームワーク・リーダーシップ			多職種、多国籍の人たちへの関心を深める			
G 倫理観			グローバルな視点で物事を捉えることができる			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 50 %		発表： 30 %		実技試験： %
その他： 20 %						
特記事項：アクティブ・ラーニング 災害や自然の特性を体験できる体験型学習施設を活用し、看護師としての災害支援の実践を理解できることを目指す。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： レポートは講義時に課題を提示する						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： レポート提出ならびに学習発表においてコメントを行う。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【北濱】ガイダンス 国際看護と災害看護の目的と概要 国際機構とミレニアム開発目標 について				【事前学習】最近の新聞からについて途上国のニュースペーパーを持参する		
②【北濱】諸外国における健康問題と医療・看護活動の実際：グループワーク①				【事前】諸外国における健康問題について要約しておく		
③【北濱】諸外国における健康問題と医療・看護活動の実際：グループワーク②						
④【北濱】諸外国における健康問題と医療・看護活動の実際：グループワーク③ 発表				【事前】海外のある国を選択し、課題レポートを統合する		
⑤【村田】災害看護を学ぶ意義の理解				【事前】テキストP236～248の学習 【事後】体験学習施設の理解とWeb訪問		
⑥【村田・北濱】富山県四季防災館において災害体験学習を行い災害から自己を守る方法の理解を深める。				【事前】災害の種類についてとその特徴 【事後】①災害から自己の身を守る行動について		
⑦【村田・北濱】富山県四季防災館において災害体験学習を行い災害から自己を守る方法の理解を深める。				②災害時に求められる看護師の役割 ③グループ発表課題		
⑧【村田】災害看護における学習課題についての発表とまとめ				【事前】③グループ発表課題 【事後】災害看護における学習課題の復習		
※⑥⑦については、2コマ連続で学外の施設で行います。						
使用テキスト： ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護				その他参考文献など： 配布資料で紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 世界で起きている紛争や貧困、災害の影響について関心をもってください。						

看護学科

2 年

科目名: 在宅看護学援助論 I				担当教員 氏名: 寺西敬子、今川孝枝		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
地域で暮らす療養者、家族を対象とした看護を展開できるようになるために、在宅療養者とその家族に対する在宅ケアの実際と、地域の特徴を捉えた展開方法を知り、そのケアシステムにおいて活動する看護職および介護支援専門員の役割を学ぶ。また、様々な障害を持つ人々が地域で暮らし続けるための仕組みとその仕組みづくりの方法や過程について学ぶ。				地域、ケアシステム、仕組みづくり		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 5. 6. 8. 9. 10		
A 知識・理解力		地域で活動する看護職および介護支援専門員の役割、社会資源の有効な活用方法について理解することができる。				
B 専門的技術		在宅支援サービスの具体的な展開方法を習得する。				
C 論理的思考力		情報や知識を複眼的、論理的に分析し、在宅療養者とその家族のアセスメントができる。				
D 問題解決力		地域の関係機関、各専門職、ケアマネジメントについて理解し「人、こと、もの」に働きかけることができる基礎を作る。				
F チームワーク・リーダーシップ		グループワークを通し、各自専門職としての役割を理解しチームに参画することができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: 20 %		発表: 30 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として障害者疑似体験、事例検討(ロールプレイ、グループディスカッション、プレゼンテーション)を行う。これらを行うことにより、地域で暮らす療養者、家族、サービスなどを理解し、多職種で連携しながら看護を展開できることをねらいとしている。上記の「その他10%」: 授業の取り組み姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で、まとめとしての筆記試験を行います。適宜レポートの提出と発表を課します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストや提出レポートにコメントを記載して返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【寺西】オリエンテーション、在宅ケアの連携とマネジメント				【事前】関連した教科書を読む 【事後】①の復習		
②【寺西】地域で暮らす高齢者の理解				【事前】関連した教科書を読む 【事後】②の復習		
③【寺西】在宅看護における安全性の確保				【事前】関連した教科書を読む 【事後】③の復習、課題作成		
④【寺西】介護保険制度				【事前】関連した教科書を読む 【事後】④の復習		
⑤【寺西】他(多)職種との連携(在宅における連携の特徴)				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑤の復習		
⑥【寺西】他(多)職種との連携(医療従事者、福祉従事者との連携)				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑥の復習		
⑦【寺西】在宅ケアを支える制度と社会資源				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑦の復習		
⑧【寺西】地域包括ケアシステム				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑧の復習		
⑨【寺西】在宅におけるケアマネジメントの展開方法				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑨の復習		
⑩【寺西・今川】ケアマネジメント(グループ学習) 事例を用いて				【事前】関連した教科書を読む 【事後】グループで課題修正		
⑪【寺西・今川】ケアマネジメント(グループ学習) 事例を用いて				【事前】関連した教科書を読む 【事後】グループで課題修正		
⑫【寺西・今川】ケアマネジメント(グループ学習) ケアプラン				【事前】関連した教科書を読む 【事後】グループで課題修正		
⑬【寺西・今川】ケアマネジメント(グループ学習)				【事前】事前課題見直し、教科書を読む 【事後】復習・事後課題作成		
⑭【寺西・今川】ケアマネジメント(グループ学習)				【事前】事前課題見直し、教科書を読む 【事後】復習・事後課題作成		
⑮【寺西】まとめ				【事前】事前課題見直し、教科書を読む 【事後】復習・事後課題作成		
使用テキスト: 1. 看護実践のための根拠がわかる 『在宅看護技術』新版 正野逸子、本田 彰子(メヂカルフレンド社) 2. 系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院出版)				その他参考文献など: 1. 国民衛生の動向		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業の予習・復習を前提とした主体的な姿勢で授業に臨んでください。適宜ロールプレイやグループワークを取り入れます。この授業は3年次の在宅看護学実習につながるものです。						

看護学科

2年

科目名：在宅看護学援助論Ⅱ				担当教員氏名：寺西敬子、若瀬淳子 今川孝枝、小出えり子、蘭直美	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要： 在宅療養やその家族の理解を深め、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学ぶとともに、在宅における看護職の役割について学び、在宅療養者と家族のQOL向上を目指した生活支援方法を実施できるための基礎を作る。					キーワード
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9.	
A 知識・理解力	在宅療養者と家族のQOL向上を目指した保健・医療・福祉システム、生活支援方法について理解できる。				
B 専門的技術	在宅看護活動基盤形成に必要な技術が習得できる。				
C 論理的思考力	情報や知識を複眼的、論理的に分析し、在宅療養者とその家族のアセスメントを行い、課題を抽出し課題解決に向けた看護過程が展開できる。				
F チームワーク・リーダーシップ	グループワークを通し各自の役割を理解し、チームに参画することができる。				
H コミュニケーション力	コミュニケーションをすることにより、他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：40%	レポート：20%	発表：30%	実技試験：%	その他：10%	
特記事項：本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてロールプレイやグループワーク、シンポジウム参加、ディベートなどを取り入れ、地域で暮らす療養者、家族の健康管理やQOL向上を目指した生活支援を理解し看護が展開できることをねらいとしています。 上記の「その他10%」：授業の取り組み姿勢を評価します。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： ・授業の中で、まとめとしての筆記試験を行います。 ・適宜レポートの提出と発表を課します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストやレポートにコメントを記載して返却					
使用テキスト： 1.医学書院 在宅看護論(在宅看護学援助論Ⅰで使用のもの) 2.『在宅看護技術』新版(在宅看護学援助論Ⅰで使用のもの)			その他参考文献など： 1.国民衛生の動向 2.家族看護を基盤とした在宅看護論(日本看護協会出版会) 3.関連図で理解する在宅看護過程(メヂカルフレンド社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 授業の予習・復習を前提とした主体的な姿勢で授業に臨んでください。この授業は3年次の在宅看護学実習につながるものです。					
授 業 計 画					事前・事後の学習課題
回数					
1	【寺西】オリエンテーション、在宅における看護活動、在宅看護の特徴				【事前】関連した教科書を読む 【事後】①の復習
2	【寺西】在宅における看護活動、在宅看護の特徴と看護の役割				【事前】関連した教科書を読む 【事後】②の復習
3	【寺西】在宅ケア体制とケアマネジメント				【事前】関連した教科書を読む 【事後】③の復習
4	【寺西】在宅看護のリスクマネジメント				【事前】関連した教科書を読む 【事後】④の復習
5	【寺西】在宅看護技術(マナー)				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑤の復習
6	【寺西】在宅看護技術(コミュニケーション)				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑥の復習
7	【寺西】在宅看護過程				【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑦の復習

※前ページよりつづき

看護学科

2年

科目名：在宅看護学援助論Ⅱ		担当教員氏名：寺西敬子、若瀬淳子 今川孝枝、蘭直美
8	【寺西】在宅での看護記録	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑧の復習
9	【若瀬】在宅療養者の症状・状態別看護（小児 看護過程）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑨の復習
10	【若瀬】在宅療養者の症状・状態別看護（小児 看護過程）ワーク在宅における日常生活援助技術（排泄）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑩の復習
11	【小出・寺西】在宅における日常生活援助技術（食事）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑪の復習
12	【小出・寺西】在宅における日常生活援助技術（排泄）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑫の復習
13	【小出・寺西】在宅療養者の日常症状・状態別看護（清潔と衣生活）在宅看護過程の展開、在宅における医療技術	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑬の復習
14	【小出・寺西】在宅における日常生活援助技術（活動と休息）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑭の復習
15	【蘭・寺西】在宅における日常生活援助技術（リハビリテーション）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑮の復習
16	【蘭・寺西】在宅における日常生活援助技術（住まい・生活環境）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑯の復習
17	【蘭・寺西】地域で生活する難病を持った人に対する支援・制度の理解	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑰の復習
18	【今川】処置に伴う援助技術（医療処置）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑱の復習
19	【今川】薬物療法と服薬管理	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑲の復習
20	【蘭・寺西】疼痛管理	【事前】関連した教科書を読む 【事後】⑳の復習
21	【蘭・寺西】在宅終末期ケア	【事前】関連した教科書を読む 【事後】(21)の復習
22	【蘭・寺西】在宅療養者の症状・状態別看護（事例の疾患理解と情報整理）	【事前】事例に関連した教科書を読む 【事後】課題にとりくむ
23	【蘭・寺西】在宅療養者の症状・状態別看護（事例の疾患理解と情報整理、関連図作成）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】課題にとりくむ
24	【蘭・寺西】在宅療養者の症状・状態別看護（GW:事例の情報整理、関連図作成）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】課題にとりくむ
25	【蘭・寺西】在宅療養者の症状・状態別看護（GW:事例の関連図作成、看護課題作成）	【事前】関連した教科書を読む 【事後】課題にとりくむ
26	【蘭・寺西・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(GW:事例の関連図作成、看護課題について中間発表)	【事前】発表準備 【事後】課題の修正
27	【蘭・寺西・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(GW:事例の訪問看護計画作成)	【事前】関連した教科書を読む 【事後】課題にとりくむ
28	【蘭・寺西・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(GW:事例の訪問看護計画作成、発表準備)	【事前】関連した教科書を読む 【事後】課題にとりくむ
29	【蘭・寺西・今川】在宅療養者の症状・状態別看護 事例展開(事例の発表・討論)	【事前】発表準備 【事後】課題の修正
30	【寺西】まとめ	

看護学科

2年

科目名: 精神看護学援助論 I					担当教員 氏名: 炭谷靖子・高林知佳子・蘭直美	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
精神の疾病や障害が及ぼす生活障害(生きづらさ)を理解する。早期退院・地域での生活を視座に当事者なりのウェルビーイングに必要な資源の活用など精神障害者への援助の基礎を習得する。					こころの健康 地域移行支援 障害者総合支援法 強制入院 行動制限と人権尊重 精神運動性興奮 治療的關係 ストレス	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		精神障害者の「生きづらさ」について、精神症状や精神運動性興奮の影響などの知識を活用できる。精神障害者への社会的偏見の歴史を学習し、適切な援助に役立てることができる。				
C 論理的思考力		精神の障害が、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別看護として看護計画に反映させることができる。				
G 倫理観		精神科疾患や精神科病院への偏見を理解し、当事者への人権的配慮ができる。疾患からの行動を理解して対応できる。				
D 問題解決力		当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。 精神科リハビリを理解し関係する人や社会資源の活用を考えることができる。				
B 専門的技術		精神科疾患からの影響や各人に適した社会資源の活用、社会復帰についての知識を活用できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %		レポート: 10 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: ・出席状況、授業態度、定期試験の結果などで総合評価する。 ・アクティブ・ラーニングの一環として、DVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験、レポートは後日返却する。						
授 業 計 画				事 前・事 後 学 習 課 題		
①【蘭】こころの健康とは				シラバスを確認し、授業の目的目標を理解しておく。		
②【蘭】ストレスと身体反応				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
③④【蘭】ビデオ鑑賞 精神看護学概論の復習と精神看護学援助論の導入として				事後にビデオの内容について感想をノートに記載しておく		
⑤【蘭】患者の責任能力→病棟での代理行為、精神科疾患患者と犯罪性、ビデオ鑑賞後グループ討議と発表				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑥【蘭】強制入院と患者の人権について 特に行動制限・処遇との関連性				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑦【高林】障害者・精神障害者の定義、精神障害者保健福祉手帳、障害のある個人への支援の在り方				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑧【高林】精神障害者の医療の動向、精神保健福祉施策の現状、精神障害者の援助方法				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑨【高林】障害者総合支援法、精神障害者の地域移行のための支援				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑩【高林】精神科リハビリテーション、精神科救急システム、社会病理を背景とする精神的問題				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑪【炭谷】現代社会に多いこころの健康問題				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑫【炭谷】精神科患者の身体合併症 他科とのかかわり リエゾン医療				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑬【蘭】チーム医療 家族とその支援				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑭【蘭】精神科特有の事故、自殺、離院、傷害、転倒、誤薬、暴力、放火等				【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑮【蘭】まとめ				ノート・資料等で授業全体を振り返っておく。		
使用テキスト: ○精神看護の基礎 精神看護学① 系統看護学講座 (医学書院) ○精神看護の展開 精神看護学② 系統看護学講座 (医学書院) ○看護のための精神医学 第2版 中井久夫、山口直彦 (医学書院)				その他参考文献など: こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 一見、身体疾患と違った学習内容も多く、日常的にはなじみのない用語も多く出てきます。しかし、決して特殊な領域ではないことが理解できると思います。興味を持って臨んでください。						

看護学科

2年

科目名：精神看護学援助論Ⅱ				担当教員氏名：炭谷靖子・蘭直美	
単位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
精神障害者の生活障害を理解し適切な援助方法を学習する。精神障害者とその家族の不安や健康問題を解決するための看護援助を看護計画として立案、実践できる基本的能力を育成する。収容施設から治療施設への精神科病院の変化に対応して家族や地域支援システムなど社会資源の活用方法についても学ぶ。					心の障害 ストレスと身体的反応 精神科疾患と精神症状 治療的関わり 看護計画立案
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		看護展開のための精神科疾患の症状・治療・精神科リハビリテーションを理解する。精神科疾患当事者の「生きづらさ」や急性・慢性症状を理解できる。			
C 論理的思考力		精神の障害が、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別看護として看護計画に反映できる。			
D 問題解決力		精神障害者を個別に理解し、当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。精神科リハビリテーションを理解し関係する職種や社会資源の活用を考えることができる。			
G 倫理観		精神障害者の処遇や社会的偏見を理解して寛解過程に向き合うことができる。			
H コミュニケーション力		精神科疾患の急性期や慢性時の特徴に対して信頼関係の構築や不安の除去にむけて、工夫する大切さが理解できる。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：70%		レポート：20%		発表：% 実技試験：% その他：10%	
特記事項： ・プロセスレコードや看護計画立案、出席状況、その他を総合して評価する。 ・アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークと発表を行う。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：適宜行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験、レポートは評価の後に返却する。					
授業計画			事前・事後学習課題		
①【蘭】精神科看護と「治療的関わり」対象の理解：情報の収集と活用について			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
②【蘭】精神科疾患と精神症状まとめ、検査と治療(薬物療法・精神療法など)			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
③【蘭】治療的環境と家族の役割、			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
④【蘭】精神保健医療の展望と看護			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
⑤【蘭】薬の副作用 陰性症状・陽性症状 精神科患者の生活障害			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
⑥【蘭】精神看護に用いる理論 看護過程(看護計画について)			【事前・事後】看護過程についてこれまでで学習したこと振り返りとまとめ。		
⑦【蘭・炭谷】看護計画の立案と展開 統合失調症 うつ病他			GWと発表 【事前】精神看護に活用される理論を調べ、精神疾患の特徴を復習。		
⑧【蘭・炭谷】看護計画の立案と展開 (その他 主な疾患もしくは症状 演習を含む)			GWと発表 【事前・事後】グループワークの進捗状況と次への課題を確認		
⑨【蘭・炭谷】看護計画の立案と展開			GWと発表 【事前・事後】グループワークの進捗状況と次への課題を確認		
⑩【蘭・炭谷】看護計画の立案と展開 臨地実習からの学びについて			GWと発表 【事前】発表準備 【事後】発表の振り返りと学びの整理		
⑪【蘭・炭谷】プロセスレコード			【事前】1年次に学んだTAIについて復習。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑫【蘭・炭谷】プロセスレコード			【事前】資料を基に課題を実施。 【事後】講義資料を復習として読む。		
⑬【炭谷】障害者、特に精神障害者への社会的偏見と理解への努力			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
⑭【炭谷】精神科医療と事故や事件			【事前】項目を教科書で読んでから講義に臨む。		
⑮【炭谷】まとめ			ノート、資料を用いて授業全体を振り返っておく。		
使用テキスト： ○精神看護の基礎 精神看護学① 系統看護学講座 (医学書院) ○精神看護の展開 精神看護学② 系統看護学講座 (医学書院) ○看護のための精神医学 第2版 中井久夫+山口直彦 医学書院				その他参考文献など： こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 医学書院 交流分析に関する図書 白井幸子：看護にかすカウンセラー―臨床に役立つさまざまなアプローチ、医学書院	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：この授業では具体的精神看護の展開方法を主な学習内容としています。先に学んだ精神疾病治療管理論と精神看護概論、特に精神看護援助論Ⅰの内容と関連付けながら学習を進めることで精神看護の理解を深めることができる授業です。 精神医療の歴史、精神保健福祉法による行動制限、主な精神科疾患の理解、などの復習と同時に学んで授業に臨んでください。					

看護学科

2年

科目名：成人看護学援助論 I (急性期)				担当教員 氏名：中田智子、小幡光子、大橋達子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
成人期は、社会的役割を担い、自立・自律し、基本的にはセルフマネジメント、意思決定ができる存在です。そのような人の急な病気・外傷・手術に伴う人間の心理的ストレスや生体侵襲などによる心身反応を理解し、個人の尊厳に配慮しながら根拠に基づいた看護を提供できる知識・技術・態度の育成を目指す。					手術侵襲 生体反応 術前・術中・術後の看護 クリティカルケア
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる			
C 論理的思考力		さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探求する			
E 自己管理能力		自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない			
F チームワーク・リーダーシップ		グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たし、お互いを資源とし、助け合う			
G 倫理観		他者が、自分が尊重され、配慮されたと認識できるような行動をする			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 60 %	レポート： 20 %	発表： 10 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項： 「発表10%」は演習における態度・取り組み姿勢や課題内容について評価する 「その他10%」については、授業態度・取り組み姿勢を評価する					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 最後に筆記試験による学習内容の確認を実施する。 適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：小テストにて授業内容の理解度確認をする。演習に向けて事前課題を提示し、演習後提出を課し、コメントして返却する。					
授 業 計 画				事前・事後学習課題	
①【小幡】外科看護の特徴と課題				事前：テキスト第1章より外科患者の病態について理解しておく	
②【小幡】外科患者の病態の基礎					
③【小幡】周手術期看護の概論				事後：前回の授業の理解度の確認として授業のはじめに小テストを課	
④【小幡】術後合併症の発生機序					
⑤【小幡】術前の看護				事前：テキスト第7章より手術前患者の看護について理解しておく	
⑥【小幡】術当日・術直後の看護					
⑦【中田】手術前の看護(演習)				事後：手術前患者の看護の演習後の課題提出	
⑧【中田】手術直後の看護(演習)					
⑨【特別講師】手術室の看護(手術室の特徴)				事前：テキスト第8章より手術中患者の看護について理解しておく	
⑩【特別講師】手術室の看護(看護師の役割)					
⑪【特別講師】手術室の看護(演習)				事後：手術室の看護の演習後の課題提出	
⑫【特別講師】手術室手洗い・無菌操作(演習)					
⑬【大橋】クリティカルケア看護の基本概念				事前：テキスト第12章よりクリティカルケア患者の看護について理解し	
⑭【大橋】クリティカルな状態にある人の特徴と理解、援助					
⑮【中田】知識の確認とまとめ				事後：筆記試験の学習を行う	
使用テキスト： 1. 矢永勝彦他編集：系統看護学講座：別巻 臨床外科看護総論，医学書院 2. 北島政樹他編集：系統看護学講座：別巻 臨床外科看護各論，医学書院 3. 看護診断ハンドブック第10版，医学書院				その他参考文献など： 竹内登美子：周手術期看護1～5，医歯薬出版株式会社 本庄恵子監修：写真でわかる臨床看護技術②，インターメディカ	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 課題は期日を守って提出する。演習においてグループメンバーと協力して行う。					

看護学科

2年

科目名: 成人看護学援助論Ⅱ(急性期)				担当教員 氏名: 中田智子、小幡光子 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
成人期は、社会的役割を担い、自立・自律し、基本的にはセルフマネジメント、意思決定ができる存在です。そのような人の急な病気・外傷・手術に伴う人間の心理的ストレスや生体侵襲などによる心身反応を理解し、個人の尊厳に配慮しながら根拠に基づいた看護を提供できる知識・技術・態度の育成を目指す。						手術侵襲・生体反応 術前・術後の看護 術後合併症 看護過程
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力			知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる			
C 論理的思考力			さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探求する			
E 自己管理能力			自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない			
F チームワーク・リーダーシップ			グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たし、お互いを資源とし、助け合う			
G 倫理観			他者が、自分が尊重され、配慮されたと認識できるような行動をする			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: 「発表10%」は演習における態度・取り組み姿勢や課題内容について評価する 「その他10%」については、授業態度・取り組み姿勢を評価する						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最後に筆記試験による学習内容の確認を実施する。 適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 小テストにて授業内容の理解度確認をする。演習に向けて事前課題を提示し、演習後提出を課し、コメントして返却する。						
授 業 計 画					事前・事後学習課題	
①【小幡】臨床外科看護各論の概要					事前: テキスト第9章より手術後患者の看護について理解しておく	
②【小幡】看護過程の展開: 看護診断と共同問題の理解						
③【中田】術後合併症予防のための看護技術(1)					事後: 前回の授業の理解度の確認として授業のはじめに小テスト	
④【中田】術後合併症予防のための看護技術(2)						
⑤【小幡】看護過程の展開(1) 術前のアセスメント(術前の事例)					事前: 事例の術前のアセスメントをしておく	
⑥【小幡】看護過程の展開(2) 術前のアセスメントの要約						
⑦【小幡】看護過程の展開(3) 術後のアセスメント(術後の事例)					事後: 術前患者アセスメントの要約・術後患者のアセスメント	
⑧【小幡】看護過程の展開(4) 術後のアセスメントの要約						
⑨【中田】看護過程の展開(5) 術後の計画立案(術後の清潔援助)					事前: 術後患者の清潔の援助計画を立案する	
⑩【中田】看護過程の展開(6) 演習(術後の清潔援助実施)(1)						
⑪【中田】看護過程の展開(7) 演習(術後の清潔援助実施)(2)					事後: 演習後の課題提出	
⑫【中田】看護過程の展開(8) 記録と評価					事前: 事例の記録の整理	
⑬【中田】看護過程の展開(9) サマリー					事前・事後: 報告会の準備	
⑭【中田】看護過程の展開(報告会)(1)					報告会後の修正・課題提出	
⑮【中田】看護過程の展開(報告会)(2)					事後: 筆記試験の学習を行う	
使用テキスト: 1. 矢永勝彦他編集: 系統看護学講座; 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院 2. 北島政樹他編集: 系統看護学講座; 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院				その他参考文献など: 竹内登美子: 周手術期看護1~5, 医歯薬出版株式会社 矢田昭子編集: 基準看護計画(第2版), 照林社 本庄恵子監修: 写真でわかる臨床看護技術②, インターメディアカ		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 課題は期日を守って提出する。演習においてグループメンバーと協力して行う。 成人看護学実習に向けて看護過程の展開の理解を深めてください。						

看護学科

2年

科目名: 成人看護学援助論Ⅲ(慢性期)				担当教員氏名: 境 美代子、小出 えり子 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
慢性疾患とともに生活をしている人を理解し、その人を支える慢性期看護の役割が理解できる。さらに急性期治療の手術などを選択しないで慢性期経過をたどる「がん」治療を中心としたがん看護、終末期看護などについて疾患や症状をふまえて代表的な慢性疾患から患者の特徴と看護の展開方法を習得する。					慢性期看護、がん看護、終末期看護、セルフマネジメント	
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力			1年次に習得した看護理論, 病態生理を再確認しながら理解することができる			
B 専門的技術			状況や関係を把握して, 疾患看護の技術を習得することができる			
C 論理的思考力			さまざまな情報や知識を得て, 大局的・論理的に分析することができる			
D 問題解決力			自ら積極的に学修し, 課題に対応することができる			
F チームワーク・リーダーシップ			演習において, 解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え, 次の支援に繋げていくことができる			
G 倫理観			お互いの考えや価値観を尊重し, 行動ができる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 「その他10%」については、授業態度・取り組み姿勢を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。 テストは3人の教員の問題をまとめて実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 課題レポートはコメント記入して返却。						
授 業 計 画				事前・事後学習課題		
①【小出】呼吸器系疾患の理解				【事前】V章を熟読(呼吸器) 【事後】①の復習		
②【小出】呼吸器系疾患を有する人への看護				【事前】V章を熟読(呼吸器の看護) 【事後】②の復習		
③【小出】循環器系疾患の理解				【事前】V章を熟読(循環器) 【事後】③の復習		
④【小出】循環器系疾患を有する人への看護				【事前】V章を熟読(循環器疾患看護) 【事後】④の復習		
⑤【小出】血液・免疫系疾患の理解と看護				【事前】V-6章を熟読(血液疾患) 【事後】④の復習		
⑥【小出】脳神経疾患の理解と看護				【事前】V-7章を熟読(脳神経疾患) 【事後】⑤の復習		
⑦【境】消化器系疾患の理解				【事前】V-3章を熟読(消化器疾患) 【事後】⑥の復習		
⑧【境】消化器系疾患を有する人への看護				【事前】V-3章を熟読(消化器疾患看護) 【事後】⑦の復習		
⑨【境】代謝・内分泌系の理解				【事前】V-4章を熟読(内分泌疾患) 【事後】⑧の復習		
⑩【境】代謝・内分泌系疾患を有する人への看護				【事前】V-4章を熟読(内分泌疾患看護) 【事後】⑨の復習		
⑪【境】腎・泌尿器系疾患の理解と看護				【事前】V-5章を熟読(腎・泌尿器疾患) 【事後】⑩の復習		
⑫【境】感覚器系疾患の理解と看護				【事前】V-5章を熟読(腎・泌尿器疾患看護) 【事後】⑪の復習		
⑬【特別講義】緩和ケアの概要				【事前】医学書院「緩和ケア」テキスト熟読 【事後】⑫の復習		
⑭【特別講義】ペインコントロール				【事前】医学書院「緩和ケア」テキスト熟読 【事後】⑬の復習		
⑮【特別講義】スピリチュアルケア				【事前】医学書院「緩和ケア」テキスト熟読 【事後】⑭の復習		
使用テキスト: 看護学テキスト 1. 成人看護学「慢性期看護」南江堂 2. 第105回看護師国家試験 本試験問題と解答・解説集(東京アカデミー)				その他参考文献など: 看護診断ハンドブック(第10版), 医学書院 系統看護学講座「緩和ケア」医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 成人看護学実習に向けて疾患の理解とアセスメントがきできるように理解を深めてください。						

看護学科

2年

科目名: 成人看護学援助論Ⅳ(慢性期)				担当教員氏名: 境 美代子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
成人看護実習に向けて事例による看護過程の展開の実際を習得する。実際の実習記録を用いて情報収集、アセスメント、計画立案、指導計画まで作成する。また疾患の病態関連図や看護の関連図を作成する					慢性期看護、がん看護、終末期看護、看護過程
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 6. 9	
A 知識・理解力	1年次に習得した看護理論、病態生理を再確認しながら理解することができる				
B 専門的技術	状況や関係を把握して、疾患看護の技術を習得することができる				
C 論理的思考力	さまざまな情報や知識を得て、大局的・論理的に分析することができる				
D 問題解決力	看護過程を実際に行うことで、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え、次の支援に繋げていくことができる				
E 自己管理能力	自ら積極的に学修し、課題に対応することができる				
F チームワーク・リーダーシップ	看護過程を実際に行うことで、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え、次の支援に繋げていくことができる				
G 倫理観	お互いの考えや価値観を尊重し、学修行動をとることができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 30 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 「発表10%」は事例における看護過程の展開の発表内容について評価する。 「その他10%」については、授業態度・グループワークでの取り組み姿勢を評価する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最後に筆記試験による学習内容の確認を実施する。 適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 事例の記録について項目ごとにコメントし、記録を返却する。					
授 業 計 画			事前・事後学習課題		
①【境】慢性期看護各論の概要			【事前】慢性期疾患看護テキストの1章を熟読 【事後】①の復習		
②【境】看護過程の展開: 看護記録の概要			【事前】成人看護実習Ⅱの記録様式を確認する 【事後】②の復習		
③【境】看護過程の展開(1) 病態生理の理解			【事前】慢性期疾患に関する参考文献を準備する 【事後】③の復習		
④【境】看護過程の展開(2) アセスメント(情報収集と分析)			【事前】慢性期疾患の病態生理、検査などの概要を理解する 【事後】④の復習		
⑤【境】看護過程の展開(3) 病態関連図作成			【事前】病態関連図の内容を理解する 【事後】⑤の復習		
⑥【境】看護過程の展開(4) 病態関連図作成			【事前】事例に基づき、病態関連図を書き写す 【事後】⑥の復習		
⑦【境】看護過程の展開(5) 看護関連図作成			【事前】事例から関連図に記録する情報をまとめる 【事後】⑦の復習		
⑧【境】看護過程の展開(6) 看護関連図作成			【事前】事例の関連図を完成させ、グループ討議の準備をする 【事後】⑧の復習		
⑨【境】看護過程の展開(6) 中間報告会			【事前】事例についてアセスメント、関連図を見直す 【事後】他のグループの評価をする		
⑩【境】看護過程の展開(7) 計画立案			【事前】事例のアセスメントから看護計画の立案準備をする 【事後】⑩の復習		
⑪【境】看護過程の展開(8) 計画立案			【事前】事例の看護計画を完成させる 【事後】⑪の復習		
⑫【特別講義】看護過程の展開(9) 演習(指導計画)			【事前】指導計画のポイントを整理する 【事後】⑫の復習		
⑬【特別講義】看護過程の展開(10) 演習(指導計画)			【事前】指導計画が事例に基づいて書かれたかを確認する 【事後】⑬の復習		
⑭【境】看護過程の展開(11) 評価とまとめ			【事前】事例の看護計画についての評価を確認する 【事後】⑭の復習		
⑮【境】看護過程の展開(12) 報告会			【事前】慢性期疾患看護援助の記録全体を確認する 【事後】他のグループの発表を評価する		
使用テキスト: 1. 成人看護学「慢性期看護」南江堂 2. 看護診断ハンドブック(第10版), 医学書院			その他参考文献など: ・基準看護計画(第2版) 矢田昭子編集 照林社 ・関連図の書き方をマスターしよう 蔵谷範子著 サイオ出版 ・基礎と臨床につながる疾患別看護過程2015 学研		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 課題は期日を守って提出する。グループワークはメンバーと協力して行う。 成人看護学実習に向けて看護過程の展開の理解を深めてください。					

看護学科

2年

科目名： 高齢者看護学援助論 I				担当教員 氏名： 天野良平、今川孝枝	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
①加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化と、高齢者の健康と生活を整えるために必要な看護の役割を理解できる。②老年期の特徴に応じた、疾病や症状に対する看護援助が理解できる。					
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9.	
A 知識・理解力		高齢者の健康維持・増進、疾病・事故予防のための支援について理解できる。			
B 専門的技術		心身機能を評価し、健康支援のための積極的関わりをもつことができる。			
C 論理的思考力		高齢者に必要な看護援助を実践するにあたり、その根拠を述べるができる。			
G 倫理観		高齢者の特徴から個人の尊厳を守ることができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 70 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項： ・レポートは要点を要約し、基本的なレポートの書き方によって書かれていることを評価する。 ・その他は授業態度、グループワークの取り組み、課題の提出状況などを評価する。					
テスト・レポートの実施時期： 第8回中間テスト、第15回最終テストを行う。レポートは授業で指示する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：課題は添削の後返却し、授業で解説する。					
授 業 計 画			事前・事後学習課題		
①第3章 老年看護の基盤			【事前・事後】教科書①3章読む		
②高齢者の理解			【事前・事後】教科書①1,2章復習		
③第4章 高齢者のアセスメント(身体の加齢変化とアセスメント)			【事前・事後】教科書①4章A、②1章		
④第4章 高齢者のアセスメント(症状とアセスメント)			【事前・事後】教科書①4章B、②2章		
⑤第5章 高齢者の生活機能を整える看護の展開(基本的活動、食事、排泄、清潔)			【事前・事後】教科書①5章(活動、食事、排泄、清潔)		
⑥第5章 高齢者の生活機能を整える看護の展開(生活リズム、コミュニケーション)			【事前・事後】教科書①5章(睡眠、コミュニケーション)		
⑦第6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開(検査・治療を受ける高齢者への看護)			【事前・事後】教科書①6章A、②5章		
⑧第6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開(高齢者に見られる主な疾患と看護)グループワーク			【事前・事後】教科書①6章B・C、②4章		
⑨第6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開(高齢者に見られる主な疾患と看護)グループワーク			【事前・事後】教科書①6章B・C、②4章		
⑩第6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開(高齢者に見られる主な疾患と看護)グループワーク			【事前・事後】教科書①6章B・C、②4章		
【天野】⑪高齢者理解(聞き書き)			【事前】教科書③【事後】課題レポート		
【天野】⑫高齢者理解(聞き書き)			【事前】教科書③【事後】課題レポート		
⑬第6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開(認知機能の障害と看護)			【事前・事後】教科書①認知症、②認知症		
⑭第6章 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開(終末期における看護)			【事前・事後】教科書①6章D、②終章		
⑮第7、8章 生活・療養の場における看護の展開、高齢者のリスクマネジメント			【事前・事後】教科書①7,8章、②終章A		
使用テキスト： ①北川公子著者代表：系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院 ②鳥羽研二他：系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論，医学書院 ③小田豊二他著：ワークブック「聞き書き」を始めよう，木星舎。				その他参考文献など：小田豊二：「聞き書き」をはじめよう，木星舎。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：教科書は2冊併用する。事前事後ともに教科書を読んでほしい。					

看護学科

2年

科目名： 高齢者看護学援助論Ⅱ					担当教員 氏名：寺西 敬子、今川 孝枝、 小出 えり子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
1.高齢者特有の症状のあらわれ方や観察のポイントについて、高齢者の生理的特徴と関連付けて理解する。 2.高齢者に多い疾患と高齢者のQOLを高める看護を理解する。 3.高齢者の保健行動の特徴を知り、日常生活における健康維持・増進への援助と疾病や事故予防の視点をもった環境調整について理解する。						高齢者 多数の徴候・疾患 健康維持・増進 疾病・事故予防 日常生活行動 環境調整
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			高齢者の健康維持・増進、疾病・事故予防のための支援について理解できる。			
B 専門的技術			心身機能を評価し、健康支援のための積極的関わりをもつことができる。			
C 論理的思考力			看護行為にあたり、その根拠を述べるができる。			
G 倫理観			援助にあたり、個人の尊厳を守ることができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： 20 %		発表： %		実技試験： %
その他： 10 %						
特記事項： 実習で使用するアセスメントツールを使って事例の看護展開に取り組む。						
テスト、レポートの実施時期：第15回に最終テストを行う。レポートは授業で指示する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートは添削し返却、授業で解説する。						
授 業 計 画				事前・事後学習課題		
①【小出】序章 高齢者医療の現状と課題				【事前・事後】教科書①2章、②序章		
②【小出】高齢者のアセスメントの方法				【事前・事後】教科書①4章5章、②3章		
③【小出】高齢者のアセスメントの視点				【事前・事後】教科書①4章5章、②3章		
④【小出】高齢者のアセスメントの評価				【事前・事後】教科書①4章5章、②3章		
⑤【小出】高齢者の安全な薬物療法、高齢者の服薬管理能力のアセスメント				【事前・事後】教科書①6章A、②5章		
⑥【小出】高齢者の安全なリハビリテーション、高齢者医療におけるチーム医療				【事前・事後】教科書①7章A、②6章		
⑦【寺西・今川】老年看護における看護過程(1)				【事前・事後】教科書熟読		
⑧【寺西・今川】老年看護における看護過程(2)				【事前・事後】教科書熟読		
⑨【寺西・今川】老年看護における看護過程(3)				【事前・事後】教科書熟読		
⑩【寺西・今川】老年看護における看護過程(4)				【事前・事後】教科書熟読		
⑪【寺西・今川】老年看護における看護過程(5)				【事前・事後】教科書熟読		
⑫【寺西・今川】老年看護における看護過程(6)				【事前・事後】教科書熟読		
⑬【寺西・今川】老年看護における看護過程(7)				【事前・事後】教科書熟読		
⑭【今川】高齢者のリスクマネジメント				【事前・事後】教科書①8章		
⑮【今川】まとめ、試験				【事前・事後】教科書熟読		
使用テキスト： ①北川公子著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院。 ②鳥羽研二他：系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院				その他参考文献など：系統看護学講座専門分野Ⅱ 脳・神経、呼吸器、循環器、運動器，医学書院。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 授業の進度に合わせて、高齢者の疾患や病態生理の特徴(高齢者看護学援助論Ⅰ)を復習の上、参加する。教科書は2冊併用する。						

看護学科				2年		
科目名: 小児看護学援助論 I				担当教員 氏名: 堅田智香子、若瀬淳子		
単位	開講時期		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
・小児看護学概論の内容をふまえ、病気や障がい等の健康問題をもつ小児と家族を理解する。 ・「子どもの最善の利益」を考慮した看護援助と効果的な診療支援についての知識を習得する。 ・「がんの子どもを守る会」との社会交流を通して子どもと家族に興味をもつ。					病気・障がい・健康問題・小児・家族 ・「子どもの最善の利益」・看護支援 ・社会交流・子ども・興味をもつ	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8.		
A 知識・理解力		①発達段階に合わせた小児の特徴を理解し、安全・安楽・確実に看護援助を提供するための、知識を学ぶ。				
C 論理的思考力		②健康問題に配慮した小児の成長発達・栄養への支援のあり方の、基本姿勢について記述できる。				
B 専門的技術		③がんの子どもと家族の話を読み、小児と家族の苦悩を理解した支援について考えることができる。				
D 問題解決力		④がんの子どもと家族の話を読み、グループ活動をととして、自己の看護観を深めることができる。				
F チームワーク・リーダーシップ						
G 倫理観		⑤「子どもの最善の利益」を考慮し、子どもとその家族を尊重した支援について考えることができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %		レポート: 20 %	発表: 20 %	課外活動: 20 %	その他【出席率等】:10%	
特記事項: アクティブ・ラーニング						
・「がんの子どもを守る会」との交流等アクティブ・ラーニングの積極的な参加姿勢を評価する。 ・がんの子どもと家族の話から、社会の中で小児看護を幅広く深く捉え、主体的な学びに発展させることのできるレポート内容を評価する。 言語の定義: 小児=子ども						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各単元終了後に確認テスト。科目最終日にグループでの学びの発表。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却						
授業計画				事前・事後の学習課題		
①【堅田】ガイダンス 小児看護と未来を担う看護の役割						
②【堅田】小児看護学①第1章 健康障害を持つ小児と家族の看護				【事前】テキストの該当箇所を読む・課題シートの記入 【事後】配布資料の確認と復習・小テスト		
③【堅田】小児看護学①第2章 小児の状況(環境)に特徴づけられる看護						
④【堅田】小児看護学①第7章 障害のある小児と家族の看護						
⑤⑥【堅田・若瀬】小児看護学①第3章 小児における疾病の経過と看護						
⑦⑧【堅田】グループ発表:「症状を示す小児の看護」				【事前】グループ発表に向けて、担当箇所の発表資料作成 【事後】他のグループと学びを共有する		
⑨【堅田】小児看護学②第2章 低出生体重児と家族の看護				【事前】テキストの該当箇所を読む・課題シートの記入 【事後】配布資料の確認と復習・小テスト		
⑩【若瀬】小児看護学②第4章 内分泌疾患と家族の看護						
⑪【若瀬】小児看護学②第20章 子どもの虐待と看護						
⑫【堅田・若瀬】小児がんについての理解				【事前】小児がんについて調べ学習		
⑬【堅田・若瀬】小児がんの子どもと家族の看護: ゲストスピーチ				【事後】がんの子どもと家族の支援について考える		
⑭⑮【堅田・若瀬】グループ発表:「病気を持つ小児の看護」				【事前】グループ発表に向けて、担当箇所の発表資料作成 【事後】他のグループと学びを共有する		
評価審査		【堅田・若瀬】試験		健康障害のある小児と家族の生活・療養するための看護の理解を問う		
使用テキスト: ・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学② 医学書院 ・写真でわかる小児看護技術 改訂第3版 インターメディカ出版 ・ナースのための小児科学 中外医学社				その他参考文献など: がんの子どもを守る会でのリーフレット等		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・一方的な講義形式の授業ではない、自己の考えや意見を伝えるスキルのトレーニングの場とします。 ・子どもは大人のように病気で苦しくても自分から訴えることができません、看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識の習得を目指している。						

看護学科

2年

科目名：小児看護学援助論Ⅱ				担当教員氏名： 堅田智香子・若瀬淳子		
単 位	開講時期		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・前期の小児看護学の内容をふまえ、健康問題がある小児と家族の支援技術を身につける。 ・「子どもの最善の利益」を考慮した看護技術と知識の統合ができる。 ・小児看護学の臨地実習に向け準備ができる。 						病気・障がい・健康問題・小児 ・家族・子どもの最善の利益 ・看護技術・統合・臨地実習の準備
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力			①病気や入院や病期別的小児と家族を支援するための看護技術を身につける。			
C 論理的思考力			②小児期特有の症状や疾患をもつ小児と家族への支援技術を習得する。			
B 専門的技術			③さまざまな状況にある小児と家族の現状を理解する。			
D 問題解決力			④「保育園における災害訓練」の支援を通して、地域における看護師の活動と役割について考える。			
F チームワーク・リーダーシップ						
G 倫理観			⑤保育園児への支援活動を通して「子どもの最善の利益」を考慮した臨地実習の準備ができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %		レポート： 20 %		発表： 20 %		課外活動： 20 %
その他： 10 %						
特記事項：アクティブ・ラーニング 課外活動は、地域の災害訓練「西部保育園との援護活動」によるアクティブ・ランニング。 看護学生として、災害時に特別支援を必要としている人々へのケアや支援活動における役割と責任について考える。 また、地域の保育園児との交流を通し、小児と家族あり方や自己のこれからの臨地実習での主体的な学びに発展させることを重視する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 各単元終了後に確認テストまたは、グループ発表・技術チェックを成績の評価とする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【堅田】ガイダンス						
②【堅田・若瀬】事例による看護過程の展開：情報の整理とアセスメント				【事前】テキストの該当箇所や配布資料を読む・図書館などで参考図書を活用し、課題シートの記入		
③【堅田・若瀬】事例による看護過程の展開：アセスメント				【事後】看護過程に用いるシートの記入と修正の繰り返し(つくり・つくりかえ・つくる)		
④【堅田・若瀬】事例による看護過程の展開：関連図						
⑤【堅田・若瀬】事例による看護過程の展開：関連図						
⑥【堅田・若瀬】事例による看護過程の展開：看護計画立案						
⑦【若瀬・堅田】小児看護技術 処置・検査・治療の支援(プレパレーション)				【事前】テキスト付属のDVD視聴とテキストを参考にワークシート課題の記入		
⑧【若瀬・堅田】小児看護技術 観察・身体計測・更衣・おむつ交換など				【事後】安全・安楽・確実に技術が実施できるよう、再度DVD・テキストにて技術の留意点を確認		
⑨【若瀬・堅田】小児看護技術 救急救命処置：1次救命処置と誤飲食の対応処置				【事前】テキスト付属のDVD視聴とテキストで技術のイメージ化。作成したワークシートで技術の留意点を再度確認		
⑩⑪⑫【若瀬・堅田】小児看護技術 グループに分かれて演習				【事後】実施した技術の振り返り。グループ間での気づきと今後の課題の明確化		
⑬課外【堅田・若瀬】西部保育園での災害訓練と救助活動				【事前】小児の発達の特徴の復習(小児看護学概論の復習)		
⑭【堅田・若瀬】西部保育園での災害訓練と救助活動の学びの発表(グループ発表)				【事前】救助活動での気づきをグループ間で討議。グループでの学びと課題を抽出 【事後】発表後のコメントから、改善点を明らかにする		
⑮【堅田・若瀬】障がい児看護の実際 講師：こども支援センター看護師				【事前】障がい児支援の現状について調べる 【事後】障がい児看護の実際がイメージでき、障がい児支援のありかたについてレポート		
評価審査 【堅田・若瀬】試験						
使用テキスト： ・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学② 医学書院 ・写真でわかる小児看護技術 改訂第3版 インターメディア出版				その他：小児の疾患と病気の成り立ち等の医学書を参考にする		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・一方的な講義形式の授業ではない、自己の考えや意見を伝えるスキルのトレーニングの場とします。 ・子どもは大人とは異なり、訴えができません、小児看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識・技術の習得を目指してほしい。 ・日程は講師の都合、学校の行事により変更することがありますので掲示板を確認ください。						

看護学科

2年

科目名: 母性看護学援助論 I				担当教員 氏名: 北濱まさみ、村田美代子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
マタニティサイクルにある女性及び新生児とその家族の特徴を理解し、良好な経過を促すための看護に関する基礎的知識と技術及び態度の習得をめざす。更に、健康障害を持つ女性の看護における基礎的知識の習得をめざす。				妊娠 分娩 産褥 胎児 新生児 母体の変化 マイナートラブル 心理的变化 母子相互作用 母親役割 子宮外生活への適応 ハイリスク妊娠	
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識を学ぶ。			
B 専門的技術		妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得する。			
C 論理的思考力		身体的な一体性から社会的な二者一体性への連続した変化を考える。			
D 問題解決力		正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。			
G 倫理観		女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 70 %		レポート: 20 %		発表: % 実技試験: % その他: 10 %	
特記事項: 授業と並行してレポート課題に取り組み、自己の学習ノートを作成し母性看護学実習に向けた学習準備を行う。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ガイダンスでレポート課題を提示します。また毎回ミニテストを実施する。科目試験は15回後に実施しますので日程を確認してください。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:ミニテスト、テストにおいては解説を行う。 レポート課題については学習到達をコメントし返却する。					
授 業 計 画			事前・事後学習課題		
①【村田】ガイダンス、マタニティサイクルにある人々の看護、女性・家族にとっての妊娠・出産と子育ての意義			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
②【村田】妊婦の看護Ⅰ 1. 妊娠期の身体的変化 2. 妊娠期の心理・社会的特性			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
③【村田】妊婦の看護Ⅱ 1. 妊娠経過と胎児の発育と健康状態の診断 2. 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
④【村田】妊婦の看護Ⅲ 1. 妊婦の保健相談 2. 親になるための準備支援			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑤【村田】妊婦の看護Ⅳ 1. 妊娠期のリスクと健康課題その看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑥【北濱】産婦の看護Ⅰ 1. 分娩の要素 2. 分娩の経過			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑦【北濱】産婦の看護Ⅱ 1. 産婦・胎児、家族のアセスメント・看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑧【北濱】産婦の看護Ⅲ 1. ハイリスク分娩・胎児の異常と看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑨【村田】褥婦の看護Ⅰ 1. 産褥期の身体的変化(退行性変化、進行性変化) 2. 産褥期の心理・社会的変化			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑩【村田】褥婦の看護Ⅱ 1. 褥婦のアセスメント 2. 褥婦と家族の看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑪【村田】褥婦の看護Ⅲ 1. 産褥期の心理社会的変化のアセスメント 2. 産褥期の精神障害と看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑫【村田】褥婦の看護Ⅳ 1. 産褥の異常と看護 2. ハイリスク児の家族や児を亡くした家族の看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑬【村田】新生児の看護Ⅰ 1. 新生児看護の意義 2. 新生児の特徴			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑭【村田】新生児の看護Ⅱ 1. 新生児のアセスメント 2. 新生児の看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
⑮【村田】新生児の看護Ⅲ 1. 新生児に起こりやすい異常とその看護 2. 新生児の異常と看護			【事前】ガイダンスで提示 【事後】ガイダンスで提示		
使用テキスト:①森恵美 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論母性看護学②医学書院 ②写真でわかる母性看護技術 インターメディア 平澤美恵子 ③母子健康手帳				その他参考文献など: 佐世 正勝 石村 由利子: ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図、医学書院、井上 裕美他:「病気がみえるvol10 産科」	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): マタニティサイクルにある母子の身体的変化を学ぶ上で、基本となる“からだの構造と機能”について事前に学習しておくことが望ましい。また、母性看護学に関連する新聞記事や図書に目を通し、母子と家族をめぐる社会状況に関心を持ちながら講義に臨みましょう。					

看護学科

2年

科目名: 母性看護学援助論Ⅱ					担当教員氏名: 北濱まさみ、村田美代子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
マタニティサイクルにある母子と家族に対する個別的看護実践を考えるために必要な知識と技術の習得する。妊婦・産婦・褥婦および新生児が正常に経過するための援助およびセルフケア能力を高めるための看護援助方法について、基本的な看護過程の展開を通して学ぶ。					看護過程の展開 ウェルネス思考 セルフケア 母乳育児支援 母性看護技術	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識をもとに技術を学ぶ。					
B 専門的技術	妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得する。					
C 論理的思考力	対象の状態をアセスメントし看護援助を計画実施できる能力を習得する。					
D 問題解決力	正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。					
G 倫理観	女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 事例演習ではグループに分かれて課題学習と発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業ガイダンスでレポート課題を提示します。技術の習得状況を見ながら予定を変更する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却時にコメントを提示する。						
授 業 計 画					事前・事後学習課題	
①【北濱】ガイダンス マタニティサイクルにある対象の看護過程展開の理解					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
②【北濱】看護過程の展開 [事例演習]・妊娠期					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
③【北濱】看護過程の展開 [事例演習]・分娩期					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
④【北濱】看護過程の展開 [学習発表]・妊娠期・分娩期					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑤【村田】看護過程の展開 [事例演習]・産褥期					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑥【村田】看護過程の展開 [事例演習]・新生児期					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑦【村田】看護過程の展開 [学習発表]・産褥期・新生児期					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑧【村田】看護過程の展開 [事例演習]・関連図における事例の全体像の理解					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑨【村田】看護過程の展開 [事例演習]・まとめ					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑩【村田】母性看護に必要な援助技術の理解					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑪【北濱・村田】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑫【北濱・村田】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑬【北濱・村田】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑭【北濱・村田】母性看護に必要な援助技術 [技術演習]					【事前】ガイダンスで提示【事後】ガイダンスで提示	
⑮【北濱】まとめ						
使用テキスト:①森恵美 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論母性看護学[2] 医学書院 ②平澤美恵子 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ ③母子健康手帳 ④村本淳子 母性看護実習プレブック 看護過程の思考プロセス(医歯薬出版)⑤森恵美 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1]母性看護学概論 医学書院					その他参考文献など: 太田操:ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版株式会社、井上 裕美他:「病気がみえる vol10 産科」メディックメディア	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 基本的な看護過程の展開について理解を深め授業に臨みましょう。グループワークが中心となりますので、意欲的に学習に臨みましょう。						

看護学科

2年

科目名：基礎看護学実習Ⅱ				担当教員氏名：堅田智香子、境美代子、 蘭直美、小出えり子、今川孝枝、中田智子、 中井里江、今村葉映 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法		備考	
2	2年次 前期	専門科目	実習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
受け持ち患者とのコミュニケーションを図り、「看護過程」の技術を用いてアセスメント、援助計画の立案、実施と評価の一連を実習し、患者個々のニーズに応じた「看護過程」展開の方法を初めて体験し学ぶ。この実習を通して自己の看護実践レベルを自己評価し、実習後に開講する各看護学援助論の講義に臨む前段階として、この実習での経験から、自己を看護師として「つくり・つくりかえ・つくる」過程を意識する。(臨地実習)					・コミュニケーション ・看護過程 ・基礎看護技術 ・生活行動援助技術	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9. 10		
A 知識・理解力		・受け持ち患者のアセスメントに必要な情報について述べるができる ・受け持ち患者のアセスメントに必要な情報を得ることができる ・得ることのできた情報を元に受け持ち患者の人物像を述べるができる				
D 問題解決力		・看護過程を実践し、受け持ち患者の問題を明確にできる				
B 専門的技術		・受け持ち患者の個別性に応じた援助を実践し評価できる				
C 論理的思考力		・自分が行った看護過程の展開について説明できる				
H コミュニケーション力		・受け持ち患者とコミュニケーションを図ることができる				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %		
特記事項： 以下により総合的に評価する。 ・出席状況・実習記録類・課題レポート・実習中の学習態度 * 提出物は期限を厳守すること * 原則として遅刻、欠席は認めない						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：担当教員が毎日記録や学習状況を確認し指導を行い、内容および取り組み姿勢に対して評価する。						
授 業 計 画				事前・事後学習課題		
2年次 前期 2単位:90時間 実習施設：・富山協立病院 ・厚生連高岡病院 ・高岡ふしき病院 ・射水市民病院 ・済生会富山病院 ・金沢医科大学氷見市民病院 ・西能病院 ・真生会富山病院 ・八尾総合病院 * 詳細については実習要項に記載				・指定の事前学習内容について記録用紙に記録する ・生活行動援助技術の修得 ・看護過程の展開(事例)		
使用テキスト：			その他参考文献など：			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

看護学科

2年

科目名：人権論				担当教員 氏名：田中 純一		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	総合科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
医療・福祉の現場において患者・利用者・家族の人権を保障することは看護師としての使命の第一であり、基本です。この授業では身近な事例から人権問題を学び、私たちが取り組むべき課題について考えます。					<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権 ・居住の権利 ・生存権 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7. 10	
A 知識・理解力	基本的人権の意義を理解する。人権確立のための先人の努力を理解する。差別されている人びとのニーズを理解する。					
B 専門的技術	差別されている人や配慮が必要な人びとのニーズを受けとめ共感し保障できる。					
C 論理的思考力	人間の尊厳の意義を理解し論理的に説明できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	人権を保障するために積極的に発言し行動できることを目指す。					
G 倫理観	基本的人権の観点から善いことを倫理的に考察し行動できるように努める。					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： 【その他】については、小テスト、グループワークの取り組み等で評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 中間試験(第8回)、最終試験(第14回)、小レポート(第12回)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 中間試験、最終試験についてはそれぞれ次の講義内で解説する。 小レポートについては採点・コメントし返却する。小テストについては採点后返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① ガイダンス						
② 世界人権宣言				【事前】①の内容の小テスト		
③ 日本国憲法の人権思想				【事前】②の内容の小テスト		
④ 子どもの貧困と人権				【事前】③の内容の小テスト		
⑤ 生殖補助医療と自己決定権				【事前】④の内容の小テスト		
⑥ 自然災害と被災者の暮らし：被害の不平等性				【事前】⑤の内容の小テスト		
⑦ 避難所のニーズと災害時要配慮者の課題				【事前】グループワークシート提出		
⑧ 中間試験、自助・共助とその限界				中間試験		
⑨ 試験の解説、生活再建上の課題				【事前】⑧の内容の小テスト		
⑩ 社会変動と地域社会の変容				【事前】⑨の内容の小テスト		
⑪ 居住福祉				【事前】⑩の内容の小テスト		
⑫ 過疎高齢社会と地域：豊かな社会とは				小レポート提出		
⑬ 生活弱者と居住の権利						
⑭ 最終試験、生活弱者と生存権				最終試験		
⑮ 試験の解説、全体のまとめ				【事後】講義感想シートの提出		
上記の順番は外部講師等の都合により変更することがある。						
使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。必要に応じプリントを配布する。				その他参考文献など： 早川和男『居住福祉』岩波新書、1997 渥美公秀『災害ボランティア』弘文堂、2014		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：この講義を通して、基本的人権について自分のことばで説明ができるようになってください。						

看護学科

2年

科目名：英語コミュニケーション				担当教員氏名：高島 彬		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	総合科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
実践で効果的にコミュニケーションがとれる英語力を身につける。					リスニングアニメーションビデオ 教材、環境問題	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8.		
A 知識・理解力		環境に関する英語のアニメーションビデオを通し公衆衛生の基本について理解する。				
H コミュニケーション力		自然な速度の英語の会話に慣れ、理解できるようになる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 80 %	レポート： %	発表： 10 %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：毎回の授業でのペアワークなどへの積極的な活動が大切です。(「その他」で評価)						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業計画欄に記載。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 適宜採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後学習課題		
①講義概要、自己紹介表記入				[事後]自己紹介の表現を復習		
②ビデオ1				[事後]重要表現を復習		
③Lesson 1 (聞き取り、発音練習)				[事前]Lesson1の単語を調べる		
④Lesson 1 (内容確認)				[事後]Lesson1の表現を復習		
⑤Lesson 2 (聞き取り、発音練習)				[事前]Lesson2の単語を調べる		
⑥Lesson 3 (内容確認)				[事前]Lesson3の単語を調べる		
⑦Lesson 3 (聞き取り、発音練習)				[事後]Lesson3の表現を復習		
⑧中間評価と振り返り				[事前]これまでの範囲の復習		
⑨中間評価解説 Lesson 4 (聞き取り、発音練習)				[事前]Lesson4の単語を調べる		
⑩Lesson 4 (内容確認)				[事後]Lesson4の表現を復習		
⑪Lesson 5 (聞き取り、発音練習)				[事前]Lesson5の単語を調べる		
⑫Lesson 5 (内容確認)				[事後]Lesson5の表現を復習		
⑬まとめ、ビデオ2				[事後]重要表現を復習		
⑭まとめ				[事後]重要表現を復習		
⑮期末評価、発表				[事前]これまでの範囲の復習		
使用テキスト：Student Workbook Basic Listening /Basic Speaking Junko Chujo				その他参考文献など： 「すぐに使える医療・看護英語- English for Health Communication」(メジカルビュー社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：毎回の授業に必ず英和辞書を持参すること。(電子辞書使用可、携帯電話の辞書使用不可)						

科目名: カウンセリング				担当教員 氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	総合科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は、カウンセリングの理論と技法の基礎、そしてカウンセリングのプロセスについて扱う。精神分析やクライエント中心療法、行動療法といった、主要な学派の理論と技法について概説した後、事例検討を多く取り入れることによってカウンセリングプロセスについて学ぶとともに、知識を深める。						・カウンセリングの理論 ・関係性 ・事例検討
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7.	
A 知識・理解力			カウンセリングの理論と技法に関する基礎的概念を理解する			
C 論理的思考力			理論がカウンセリングプロセスでどのように生かされるかについてイメージを持つ			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: アクティブラーニングの一環として、実際の臨床記述を用い、その事例の理解、援助課程の理解をレポートとしてまとめる時間をもつ。試験については、試験①50%、試験②50%。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 試験①は8回目、試験②は15回目に行う予定						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストを採点し返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①来談者中心カウンセリングの理論と技法に関する知識を習得する。				【事後】①の復習		
②来談者中心カウンセリングが重視する、共感、受容の本質について焦点を当て、事例を用いて理解を深める。				【事後】②の復習		
③事例検討1(PTSDの治療例を素材とし、心的外傷の援助について学ぶ)				【事後】③の復習		
④精神分析的カウンセリング(精神分析的な人格論、発達論、技法論に関する知識を習得する)				【事後】④の復習		
⑤プレイセラピーの理論と技法について学ぶ。				【事後】⑤の復習		
⑥事例検討2(子どものプレイセラピー実践例を素材とし、子どもの援助に必要な知識、態度について学ぶ)				【事後】⑥の復習		
⑦前半のまとめ。				【事後】⑦の復習		
⑧心理学的検査法(投影法による人格検査を実体験し、その方法と意義を学ぶ)				【事前】①から⑦の復習		
⑨事例検討3(うつ病の治療例を素材とし、うつ病者に対する援助方法について学ぶ)				【事後】⑨の復習		
⑩事例検討4(子どものプレイセラピーと箱庭を併用した実践例について学ぶ)				【事後】⑩の復習		
⑪コラージュ療法体験				【事後】⑪の復習		
⑫事例検討5(被虐待児とその母親に対する心理治療例を素材とし、被虐待児と母親の援助について学ぶ)				【事後】⑫の復習		
⑬事例検討6(行動化を伴ったうつ症状を呈する心理治療例を素材とし、行動化の意味と対応について学ぶ)				【事後】⑬の復習		
⑭児童養護施設児童の心理的援助について学ぶ。				【事後】講義内容全体の復習		
⑮全体のまとめ。全授業内容から出題。						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本格的な事例の分析を扱います。事例から学ぶ姿勢を大切にしてください。						

看護学科

2年

科目名: 高齢者看護学実習 I				担当教員 氏名: 寺西敬子、炭谷靖子、今川孝枝、蘭直美、中田智子、中井里江、今村葉映 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	実習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
1. 施設で生活する利用者に関わるなかで、高齢者の特性を理解する。 2. 高齢者の生活を支援する方法と看護が果たす役割について学ぶ。						高齢者の特性 生活支援 看護の役割
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 5. 6. 9.		
A 知識・理解力		生活の場で高齢者と関わり、特性に合わせ援助する方法と看護師の役割を知る。				
B 専門的技術		個々の健康レベルに合わせ、生理的欲求に関わるニーズに応えることができる。				
C 論理的思考力		看護行為にあたり、その根拠を述べることができる。				
G 倫理観		高齢者の尊厳を大切にされた態度で接し、個人のプライバシーを守る配慮ができる。				
H コミュニケーション力		高齢者の特性に合わせた交流を持つことができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 実践・記録70% 態度30%
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として「聞き書き」を実践し、1冊の冊子を作成する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 実習記録は毎日教員が確認、指導する。						
授 業 計 画						事前・事後学習課題
実習期間: 2学年後期(3週間) 実習施設: 富山県内の介護老人福祉施設および介護老人保健施設 * 詳細については実習要項に記載						【事前】 事前課題(実習前に提示) 実習中、適宜追加学習 【事後】 実習の振り返り学習(学内)
使用テキスト: 老年看護学、老年看護 病態・疾患論				その他参考文献など: 解剖生理学、基礎看護技術 I・II		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

看護学科

2～3年

科目名：成人看護学実習 I				担当教員 氏名：境美代子、中田智子、今村葉映 他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
3	2～3年次 通年	専門科目	実習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
手術を受ける患者の術前・術中・術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズに応じた看護過程を展開し、手術を受ける患者の回復支援のための看護師の役割を理解することができる。 手術中患者の看護の要点を知ることができる。クリティカルな状況にある患者の特徴と看護を知ることができる。					生体侵襲、生体反応、臨床判断、共同問題、社会復帰
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		これまで学んだ知識と見学・体験した看護を統合することができる。			
B 専門的技術		患者の安全を確保して、その人に応じた方法で援助を提供することができる。			
D 問題解決力		受け持ち患者の看護過程の展開を実践することができる。			
F チームワーク・リーダーシップ		グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たすことができる。互いの情報を共有して助け合うことができる。			
G 倫理観		自らを律して、人・社会人として看護師を志す者として、自己を見つめ新たな自己成長を目指すことができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %	
特記事項： 出席状況、実習中の積極性を重視する。課題レポート、実習記録の提出その内容から総合的に判断する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：実習前課題にコメントして返却し、不備のある学生は再提出を課す。					
授 業 計 画				事前・事後学習課題	
* 実習日程・内容等の詳細については実習要項に記載				事前学習：疾患と看護について、整理したノートの提出 事後学習：実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出 事前の演習(1)：4事例を提示し、学生同士で演習 事前の演習(2)：手術室の手洗い、ガウンテクニック、無菌操作、洗髪、足浴、清拭の演習	
使用テキスト： 1. 矢永勝彦他編集：系統看護学講座；別巻 臨床外科看護総論，医学書院 2. 北島政樹他編集：系統看護学講座；別巻 臨床外科看護各論，医学書院 3. 看護診断ハンドブック第10版，医学書院				その他参考文献など： 竹内登美子：周手術期看護1～5，医歯薬出版株式会社 本庄恵子監修：写真でわかる臨床看護技術②，インターメディカ	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 本実習の目的を理解し、目標の到達に必要な行動目標を明確化して毎日の実習に臨んでほしい。 担当教員および指導者と報告・連絡・相談を密に行い、行動計画を修正しながら積極的に実習に臨んでほしい。					

看護学科

2～3年

科目名：成人看護学実習Ⅱ				担当教員氏名：境美代子、小出えり子、 中井里江、今村葉映 他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
3	2～3年次 通年	専門科目	実習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
慢性期疾患患者や終末期にある患者を理解するとともに共感的態度の育成を目指し、苦痛の緩和や自己実現への支援およびQOLの向上を目指した看護過程を展開することができる。					成人期、慢性疾患患者、看護過程の展開と実践
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		机上で学んだ知識を臨地で繋げることができる。			
B 専門的技術		単に基礎的な技術方法ではなく、その人に応じた方法を提供することができる。			
C 論理的思考力		対象者の情報収集・アセスメントを論理的に整理することができる。			
D 問題解決力		対象者の困りごとを共有し、改善方法を看護過程思考を用いて患者とともに考えることができる。			
E 自己管理能力		4週間の実習の中で身体的調整、精神的調整を行いながら、自己を見つめなおして新たな自己成長を目指すことができる。			
F チームワーク・リーダーシップ		臨地実習という場において他者(患者・医療従事者・他学生・教員など)と連絡・報告・相談を取り合い自分の定めた目標を達成することができる。			
G 倫理観		お互いの考えや価値観を尊重し、学修行動をとることができる。 常に自分の行動・言動がその場に適切かを考えることができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：	%	レポート：	80 %	発表：	%
				実技試験：	%
					その他： 20 %
特記事項： 出席状況、実習中の態度や積極性を重視する。 レポート課題、実習記録の提出などの期限は厳守すること。 実習事前課題は、再提出も含めて実習前に提出すること。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：実習最終日に記録物を提出。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：毎日の実習記録について助言し、記録の修正をする。					
授 業 計 画					事前・事後学習課題
* 実習日程・内容等の詳細については実習要項に記載					
使用テキスト：				その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 本実習の目的を理解し、目標の到達に必要な行動目標を明確化して毎日の実習をに臨んでほしい。 受身ではなく毎日の実習目的を自ら提示し、指導者と相談・連絡・報告し修正しながら積極的な姿勢で実習に参画されることを望む。					

看護学科

2～3年

科目名: 高齢者看護学実習Ⅱ				担当教員氏名: 今川孝枝、小出えり子、北濱まさみ、炭谷靖子、寺西敬子、中井里江、他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2～3年次: 通年	専門科目	実習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
対象者及び家族の思いを尊重しながらQOLの向上を目指し、高齢者の特性を踏まえた看護過程を展開する。					高齢者の特性 QOLの向上 生活支援 看護過程
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		現在までに得た知識や技術を実践の場で活用・統合することができる。			
B 専門的技術		高齢者特有の健康問題に対し、具体的援助方法を考え提供することができる。			
C 論理的思考力		看護行為にあたり、その根拠を述べることができる。			
D 問題解決力		高齢者の健康問題を解決するための看護過程を展開することができる。			
G 倫理観		高齢者の尊厳を重んじ、人権に配慮した対応ができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 100 %	
特記事項: 「その他」は、実践・記録70%、態度30%とする。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 実習記録は毎日教員が確認、指導する。					
授 業 計 画				事前・事後学習課題	
実習期間: 3週間の実習を行う。 実習施設: 県内の療養型病院 * 詳細については実習要項に記載				【事前】事前課題(実習前に提示) 実習中は適宜追加学習 【事後】まとめのレポート(記録)	
使用テキスト: 老年看護学、老年看護 病態・疾患論				その他参考文献など: 解剖生理学、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

看護学科

3年

科目名: 小児看護学実習				担当教員 氏名: 若瀬淳子、堅田智香子、村田美代子、今村葉映 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	必修/選択	備考	
2	2~3年次 通年	専門科目	実習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
子どもの成長・発達や生活環境の特徴を理解し、子どもと家族の健康を支える地域での医療・保育・施設における看護支援から「子どもの最善の利益」を考慮することができる人間性と倫理性を身につけ、それぞれの健康のレベルに応じた看護支援の実践を学ぶ。				健康障害・家族のニード 看護支援・成長・発達 地域支援		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力		①さまざまな状態にある子どもとその家族に生じやすい問題について理解する。				
B 専門的技術		②子どもの最善の利益を追求する態度と支援について学ぶ。				
C 論理的思考力		③子どもとその家族のニードに応じた援助のあり方を学ぶ。				
B 専門的技術		④地域で暮らす子どもと家族に対する看護師の役割と対処を学ぶ。				
E 自己管理能力		⑤実習中の自己の健康管理ができ、欠席しない。				
F チームワーク・リーダーシップ		⑥グループ内での役割(リーダーシップ、メンバーシップ)を持ち、実習を遂行できる。				
G 倫理観		⑦適切な報告、連絡、相談ができる。 ⑧真摯な態度で実習に臨むことができる。				
H コミュニケーション力		⑨実習にかかわる人々と意思疎通ができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 50 %		発表: 10 %		実技: 30 %
その他: 10 %						
特記事項: 以下により総合的に評価する。 出席状況・実習記録類・課題レポート・実習中の学習態度 * 提出物は期限を厳守すること * 原則として遅刻、欠席は認めない						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 病院と保育園では、木曜日に施設内カンファレンスを実施。学内では、毎週金曜日に学内カンファレンスを実施。カンファレンスの中で各自の学びを発表し、グループダイナミクスを活かした学びを共有する。最終評価は、最終日の金曜日に実習記録の内容をもとに個別に面談を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 事前学習、実習中の学習態度、記録物や課題レポートなどについて実習の段階的な場面でコメントや助言を返し、最終の面談の中で総合的に評価する。						
授 業 計 画				事前・事後学習課題		
2・3年次 2単位: 90時間 実習施設: ・富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 1W ・小児科診療所(外来・クリニック) 1W ・西部保育園 1W * 詳細については実習要項に記載				【事前学習】: ノートの作成 ①小児の成長・発達 ②小児の疾病治療・看護 ③障がい児看護 【事後学習】: 国家試験につなげる学習(知識と体験の統合)		
使用テキスト: ①小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 ②小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ③写真でわかる小児看護技術 インターメディカ出版 ④ナースのための小児科学 中外医学社				その他参考文献など: 生涯発達人間発達論 医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・子どもは大人のように病気で苦しくても自分から訴えることができません、看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりとは何か自問しながら実習を進めてください。 * 遅刻、欠席は原則として認めない。感染防止と自己健康管理に留意し実習に臨んでください。						

看護学科

2~3年

科目名: 母性看護学実習				担当教員 氏名: 村田美代子、北濱まさみ、若瀬淳子、今村葉映 他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2~3年次 通年	専門科目	実習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の対象とその家族過程の特徴を理解し、母子とその家族における看護の展開について学ぶ。さらに、女性の健康づくりと母子保健の現状について体験的に学び、これらの学習を通して自己の生命観、母性・父性観を発達させる。				マタニティサイクル 女性と子ども 家族成長発達 役割適応 健康診査 保健指導 母子保健 子育て支援 ウェルネス志向 生命観 母性観 父性観 倫理的配慮		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力		母性看護の基礎的知識の理解を深める。				
B 専門的技術		母性看護の対象に必要な援助技術を理解する。				
D 問題解決力		受持事例の看護過程を展開し、事例の問題解決に必要なケアを考えることができる。				
G 倫理観		母性看護の対象の倫理的問題(自己決定の支援、プライバシーの保護や個人情報の保護、対象の権利擁護など)を思考する。				
H コミュニケーション力		看護ケア実践に必要なコミュニケーション技術を用い、受持事例やその家族、実習施設の指導者、学生、教員との円滑な関係性を図ることができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 10 %	実技: 40 %	その他: 10 %		
特記事項: 母性看護学実習評価表、レポート課題、実習態度や積極的な取り組みなどを基に評価する。 実習3週目には教員と面談し、受け持ち事例のケアを通しての学びを報告し最終評価とする。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後学習課題		
以下の内容について事前学習し実習に臨んでください。						
1. 母性看護学概論・援助論、母性小児疾病治療管理論の講義・演習(援助技術)内容の振り返り						
2. 産褥・新生児期母児の心身の変化の特徴に沿った入院中の一般的なスケジュールとケア						
実習期間: 2年後期~3年後期の期間中 3週間の実習						
実習方法: *詳細については実習要項に記載						
		対象	実習環境	実習施設		
		妊娠期	産科外来	厚生連高岡病院 高岡市民病院 市立砺波総合病院		
		分娩期	産科病棟			
		産褥期				
		新生児期				
		地域での母子保健支援	市町村保健センター	射水市 小矢部 高岡市 氷見市	たんぽぽ助産院 たけのこ助産院 ひまわり助産院 さかえ助産院	
			助産所			
使用テキスト: 母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論、小児看護学援助論等で使用したテキストを活用する				その他参考文献など: 適宜紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): * 本実習の目的を理解し、目標の達成に必要な行動目標を明確にし、計画性を持って取り組んでください。 * 実習の計画、実施についてはスタッフ及び教員に連絡・報告を密に行いながら実習に臨んでください。 * 母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論 で学んだ知識と技術を統合し実践できる機会です。 また、日頃接する機会が少ない方を対象に実習を行うので、看護実践の機会を大切に積極的に実習に臨んでほしい。						

看護学科

2～3年

科目名：精神看護学実習					担当教員 氏名： 蘭直美、炭谷靖子、他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2～3年次 通年	専門科目	実習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
当事者なりのウェルビーイングのための問題解決方法を当事者とともに考える援助技術を習得する。また退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学習を深める。					精神障害と生活障害 精神障害 人格の尊重 社会復帰施設 早期退院 ストレングス	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力	精神科疾患について理解し障害者の生きづらさを理解する。					
B 専門的技術	患者の治癒過程を理解し、看護の役割を意識して援助の方法を考え実習の中で展開する。					
C 論理的思考力	早期退院の精神科医療を理解し患者個々に適した資源の活用を考慮して入院期間の援助を考慮することができる。					
D 問題解決力	患者の情報を的確に収集・アセスメントし看護計画で実践できる。					
E 自己管理能力	患者の症状や拒否的反応に対して感情的ではなく症状の一部として理解し対応する努力ができる。実習場で対象者に健康にかかわるための自分自身の心身的健康の管理ができる。					
F チームワーク・リーダーシップ	グループ学習や患者との集団的かかわりの中で、自分の考えや意見を述べるができる。					
G 倫理観	精神科の強制入院や行動制限・処遇について、病棟での実際の運用から実感として理解を深め実践の中で展開する。					
H コミュニケーション力						
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 50 %	発表： %	実技試験： %	その他： 50 %		
特記事項： ・実習への積極的取り組みを重視する。 ・レポート課題、実習記録の提出状況なども参考にして評価する。実習最終日に教員と面接し総合評価とする。 ・実習前課題は、提出期日を厳守すること。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。						
					事前・事後学習課題	
精神看護学実習は3週間の実習である。 実習施設：和敬会 谷野呉山病院・デイケアおよび就労支援事業所 ・患者1名を受け持ち、看護計画の立案・実施を通して精神科疾患患者の治療過程を学ぶ ・デイケア・生活支援・就労支援について見学実習する 実習日程などの詳細については実習要項を参照する。 ・患者・家族・地域の理解 ・受け持ち患者を決定(看護を展開する) ・地域・就労支援の見学実習により、精神障害者の社会復帰過程を理解する					事前課題の準備 国試問題による学習の確認 実習場所の法的根拠を理解しておく	
使用テキスト： 精神科疾患管理論、精神看護学概論、精神看護学援助論の講義で使用したテキストと授業資料				その他参考文献など： こんなとき私はどうしてきたか(中井久夫、医学書院)看護のための精神医学(中井久夫、医学書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・本実習の目的を理解し、目標到達に必要な行動目標を明確にして取り組んでください。 ・担当教員および指導者に報告、連絡、相談を行いながら実習に臨めるようにしましょう。 ・講義(精神疾患管理論、精神看護学概論・援助論)で学んだ知識と実習で学ぶ技術とを統合できる機会です。						

看護学科

2～3年

科目名：在宅看護学実習					担当教員氏名：寺西敬子、今川孝枝、小出えり子、蘭直美、他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2～3年次 通年	専門科目	実習	必修		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解し、療養者及び家族に応じた看護過程が展開できる。さらに、社会資源の活用について具体的に学ぶ。					在宅療養、家族、社会資源	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 5. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解することができる。				
B 専門的技術		在宅療養を推進・継続するための社会資源の活用方法を習得できる。				
C 論理的思考力		療養者及び家族に応じた看護過程を展開することができる。				
F チームワーク・リーダーシップ		学生を含むチームメンバーの一員として役割を理解し、チームに参画することができる。				
G 倫理観		援助にあたり、尊厳や権利を尊重する看護の方法を習得する。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 50 %	発表： 10 %	実技試験： 30 %	その他： 10 %		
特記事項：本科目はアクティブ・ラーニングの一環として4形態の施設で実習を行います。実習場でのカンファレンス、報告会、学内での学びの報告やディスカッションを通して学びの共有化を図り、療養者・家族に応じた看護展開ができることを狙いとしています。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 事前学習、実習中の学習態度、記録物・課題レポートなどを総合的に評価します。 * 提出物は期限を厳守してください。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：実習記録、提出課題に対してコメント記載および個人面談でフィードバックを行います。						
授 業 計 画					事前・事後学習課題	
実習期間・方法：平成29年 5月 8日～ グループごとに実施 実習施設： ・訪問看護ステーション ・富山型ディサービス ・地域包括支援センター ・訪問入浴サービス ・訪問入浴サービス 等 * 詳細については実習要項に記載					【事前】事前課題に取り組む。関連する教科書やこれまでの講義・演習の復習。 【事後】実習で経験した事柄について関連する教科書等で復習。在宅看護領域の国家試験問題の実施。	
使用テキスト：在宅看護学関連講義(概論、援助論Ⅰ・Ⅱ)、家族看護概論、健康と法律、社会福祉概論等の教科書・資料				その他参考文献など：国民衛生の動向等		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ①本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加されることを期待します。 ②行動目標を明確にして実習に望んでください。 ③健康および生活管理を十分に行ってください。						

看護学科				2 年	
科目名: 看護研究 I (看護研究の基礎)				担当教員氏名: 寺西 敬子、成瀬 優知、炭谷 靖子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 通年	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
Evidenceの積み重ねによって看護を発展させることが必要である。そのための基礎的な技術・態度を身につけることを目標とする。また、学会や研究会に参加し、研究活動・他者との意見交換の必要性について体験し考えることも目指す。				看護研究 学会 文献検索 倫理的配慮	
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7	
A 知識・理解力	看護師として成長し続ける基礎を作るために ・看護師が研究活動を行う意義について述べるができる。 ・研究方法の種類等について述べるができる。				
B 専門的技術	・興味のあるテーマについて文献検索し、焦点を絞ることができる。 ・研究論文についてクリティークを行うことができる。				
C 論理的思考力					
D 問題解決力	・担当教員やグループメンバーとの調整を自主的に行い、課題を遂行できる。				
E 自己管理能力					
F チームワーク・リーダーシップ	・研究における倫理的配慮について述べるができる。				
G 倫理観					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 70 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %	
特記事項: 3回程度学会や研究会に参加し、レポートを提出する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業におけるショートコメントを評価指標として用いる。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートにコメントを記載して返却。					
授 業 計 画			事前・事後学習課題		
①【寺西】看護研究オリエンテーション、看護研究のすすめ			【事前】教科書第1章、2章を読む 【事後】①の復習		
②【成瀬】研究における心構え: 特に倫理に関して			【事前】教科書第3章を読む 【事後】②の復習		
③【寺西】文献検索の方法、研究方法の種類			【事前】教科書第4章、5章を読む 【事後】③の復習		
④【成瀬】量的研究方法論 I (数の特性と記述、検定と推定)			【事前】教科書第5章、6章を読む 【事後】④の復習		
⑤【寺西】文献のクリティークの方法			【事前】教科書第15章、16章を読む 【事後】⑤の復習		
⑥【成瀬】量的研究方法論 II (頻度と検定)			【事前】教科書第7~9章を読む 【事後】⑥の復習		
⑦【寺西】量的研究の文献クリティーク(頻度を用いた研究)			【事前】教科書第7~9章、15~16章を読む 【事後】⑦の復習		
⑧【成瀬】量的研究方法論 III (平均と検定、相関と回帰)			【事前】教科書第7~9章を読む 【事後】⑧の復習		
⑨【寺西】量的研究の文献クリティーク(連続数を用いた研究)			【事前】教科書第7~9章、15~16章を読む 【事後】⑨の復習		
⑩【炭谷】質的研究 概要説明			【事前】教科書第11章、12章を読む 【事後】⑩の復習		
⑪【炭谷】質的研究 文献解説と抄読演習			【事前】教科書第11章、12章を読む 【事後】⑪の復習		
⑫【成瀬】文献検索・文献クリティークの実践: 興味のあるテーマについて(演習)			【事前】教科書第7~9章、15~16章を読む 【事後】⑫の復習		
⑬【寺西】文献検索・文献クリティークの実践: 興味のあるテーマについて(演習)			【事前】教科書第7~9章、15~16章を読む 【事後】⑬の復習		
⑭【寺西】学会参加			【事前】これまでの授業を復習する 【事後】学会参加による課題を作成する		
⑮【成瀬】学会参加			【事前】これまでの授業を復習する 【事後】学会参加による課題を作成する		
使用テキスト: 著: 黒田 裕子 黒田裕子の看護研究 Step by Step(第4版) 医学書院			その他参考文献など: 近藤潤子 監訳: 看護研究—原理と方法、医学書院 (他 研究に関する図書)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・興味ある事柄を追求していく楽しさを体験してください。 ・積極的に図書館を活用してください。					

看護学科

2年

科目名: 看護研究Ⅱ(看護研究の計画)				担当教員 氏名: 炭谷靖子、北濱まさみ、村井嘉寛、境美代子、寺西敬子、堅田智香子、村田美代子、若瀬淳子、今川孝枝、小出えり子 他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
個々の学生がテーマを持って文献検索を行い、優れた文献数編を選び熟読し、テーマについて学んだことをまとめる。さらに、まとめたことについてと研究計画についてのプレゼンテーションを行う。					
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7.	
A 知識・理解力		看護師として成長し続ける基礎を作るために ・選択した文献の内容について説明できる。 ・選択した文献の今後の看護活動への活用について述べるができる。			
B 専門的技術		・文献検索ができる。 ・興味のあるテーマの研究動向についてまとめ、報告できる			
C 論理的思考力					
D 問題解決力					
E 自己管理能力					
F チームワーク・リーダーシップ		・担当教員との調整を自主的に行い、課題を遂行できる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 70 % (授業への参加態度や発言)	
特記事項: ゼミ形式で授業を進め、学生が主体的に発表会の運営を行う。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別途指示する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: ゼミ形式で担当教員ごとに実施。					
授 業 計 画				事前・事後学習課題	
1~2 興味のあるテーマを選定する(担当教員の決定)【炭谷】				適宜、担当教員から指示を受ける	
3~15 文献抄読(担当教員ごとのグループワーク)					
16~26 研究計画策定					
27~30 研究計画プレゼンテーション(ポスターセッション) 平成30年1月					
使用テキスト: 適宜、担当教員から指示を受ける オリエンテーション担当: 炭谷				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・興味ある事柄を追求していく楽しさを体験してください。 ・積極的に図書館を活用してください。					